

3. 先行調査で実施された定点観測調査の対象利用者に対する追跡調査

3.1 調査の概要

3.1.1 目的

平成 29 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）「福祉用具の利用に関する効果研究事業」（一般社団法人日本福祉用具供給協会）では、全 5 回にわたる定点観測調査を実施した。最終調査である第 5 回目（平成 30 年 1 月実施）において約 3,000 人のデータを収集したところであり、この同一利用者に対して追跡調査を実施することで利用者の状態像の変化や福祉用具利用効果の分析を一層深め、エビデンスに基づく支援の在り方に繋げることを目的として実施した。

3.1.2 調査の方法

調査の方法は以下のとおりとした。

- 調査対象 :平成 29 年度当協会老健事業「福祉用具の利用に関する効果研究事業」における定点観測調査で最終回答が回収できた約 3,225 人（調査協力福祉用具貸与事業所数は 539 事業所）
- 調査実施時期 :平成 30 年 9 月～10 月
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収
- 調査内容 : 以下のとおり

平成 29 年度 定点調査項目	基本情報	年齢、性別、要介護度、中止理由、身長、体重、疾病情報、他サービス利用状況 等
	利用者の 状況	指っかテスト、転倒の回数、Barthel Index、Vitality Index、貸与中の商品及び利用頻度、利用目標の達成状況、日常生活への満足度 等
	介護者の 負担感	介護負担の状況、主たる介護者の生活への満足度等
	E-SAS	生活のひろがり、ころばない自信、自宅での入浴動作、休まず歩ける距離、人とのつながり等
平成 30 年度 に追加した 調査項目	前回調査 以降の変 化	福祉用具利用頻度、操作の慣れ 介助内容の変化 目標と目標達成の状況 専門職との連携の状況 利用中止の場合の具体的な理由 等
	その他 自由記述	福祉用具に対して、制度に対して

3.1.3 回収状況

回収状況は、以下のとおりであった。

	合計	新規利用者 平成 29 年 9 月 利用開始	継続利用者 平成 29 年 3 月 利用開始
回収数	2,121 件	—	—
うち 29 年度調査と紐づけができた件数	1,624 件	872 件	752 件
うち福祉用具の利用が継続していた件数	1,236 件	663 件	573 件

3.2 分析の考え方

以下の考え方に沿って、分析を行った。

<分析対象>

- 平成 29 年度調査の調査対象利用者について、追跡調査時点まで福祉用具貸与サービスにより福祉用具の利用を継続している利用者、すなわち新規利用者では 12 カ月、継続利用者では 18 カ月間、福祉用具を利用しているデータについて分析した。¹

<分析の前提>

- 「福祉用具の利用効果」については、同じ状態や環境の利用者が福祉用具を利用した場合と利用していない場合との比較によって検証することは困難であり、平成 29 年度調査では、一般的な高齢者の ADL の低下の状況を傍証とするため、在宅生活を送る高齢者の ADL 変化に関する研究事例を参照した。本調査においても、一般に、高齢化により ADL、QOL が一定程度低下することが想定される中で（高齢者の ADL の変化に関する研究事例等を「5.6 高齢化に伴う ADL 等の低下に関する参考資料」（P181）に示す）、本調査における福祉用具利用者の ADL、QOL の維持、改善、または悪化の程度について確認した。
- 平成 29 年度調査では、福祉用具の利用開始後から 4 カ月目までは、ADL や利用者の生活や社会との交流への意欲の向上が期待され、6 カ月目以降は維持されること、ADL については特に自立度の低い人では、その効果がより期待できる可能性があることが示唆された。本調査では、さらに 8 カ月経過した時点までの変化について確認した。

¹平成 29 年度の調査終了時点から追跡調査時点の間に、自立や ADL の向上により福祉用具を中止している事例（45 事例；利用中止している 321 事例の 14.0%）があり、福祉用具を効果的に利用することにより自立度が向上した可能性が考えられるが、経過を把握することができないため、分析対象としていない。また、平成 29 年度の調査終了時点以降に、入院・入所等により福祉用具の利用を一時中断し、追跡調査時点までに再開した 63 事例については、利用者の状況に応じて必要な期間に必要な福祉用具が利用されていることが想定されるが、状態の変化と福祉用具利用の中止、再開の時期について把握できず、福祉用具の利用期間別の集計ができないため、分析対象としていない。

<分析の指標>

- ・平成 29 年度調査と同様に、利用者の ADL、利用者の QOL、介護者の負担という 3 つの側面から、「状態が改善、維持していること」、あるいは「悪化の程度が小さいこと」を以下の指標に着目して分析した。

ADL : Barthel Index

QOL : 「意欲の指標 (Vitality Index)」、E-SAS(生活のひろがり、人とのつながり)
介護者の負担 (NFU (日本福祉大学 (Nihon Fukushi University)) 版介護負担感得点)

<分析の視点>

- ・それぞれの指標について調査期間を通じた平均値の推移を確認した。
- ・さらに、調査開始時点と比較して、状態が「維持または改善している利用者」の割合の推移、および「改善している利用者」の割合の推移を示した。
- ・上記の ADL や QOL、介護者の負担の変化について、調査開始時点の Barthel Index 得点により区分して比較した。
- ・さらに、疾患の状況や、福祉用具を導入したきっかけ、福祉用具の利用状況、リハビリテーションの状況別に比較し、どのような利用者に対して、どのような福祉用具が貸与され、どのように利用するかによって、ADL や QOL の変化がどのように異なるかを分析した。
- ・特に、ADL が改善した群については、維持、悪化した群と比較し、ADL の改善につながりやすい特性について考察した。

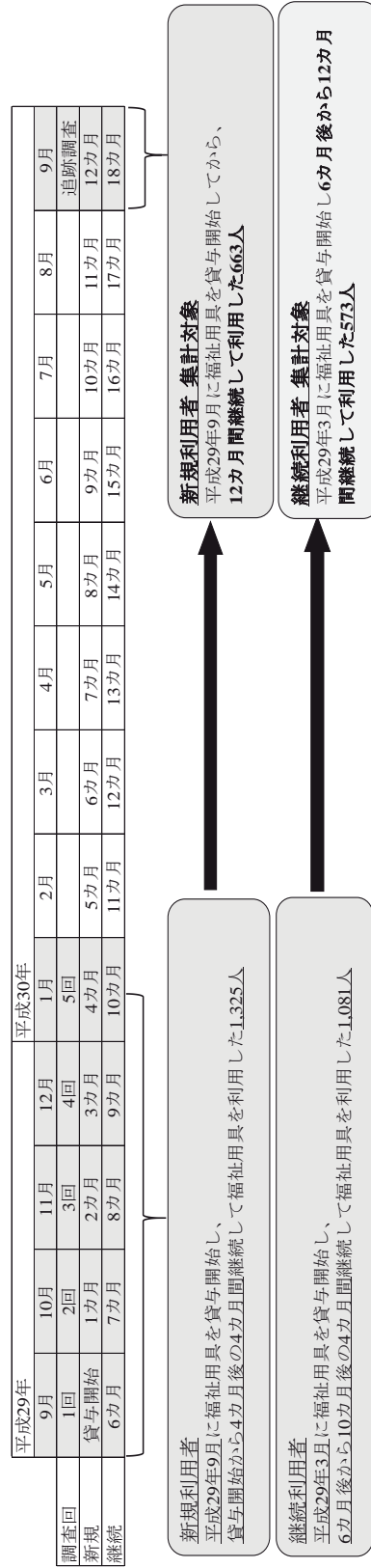
3.3 分析結果

3.3.1 利用者の状態の変化に関する分析

(1) 集計対象

平成 29 年 9 月から福祉用具の貸与を開始した「新規利用者」のうち、平成 30 年 9 月(貸与開始から 12 カ月後)まで 12 カ月間福祉用具を利用した **663 人の新規利用者**を集計対象とした。また、平成 29 年 9 月の時点で福祉用具を貸与してから 6 カ月間経過した「継続利用者」についても同様に、平成 30 年 9 月 (貸与開始から 18 カ月後) まで 12 カ月間福祉用具を利用した **573 人の継続利用者**を集計対象とした。

図表 3-1 集計対象



なお、回答が得られ平成29年度調査と紐づけできなかった利用者のうち、利用中断期間があった利用者、利用中止した利用者の状況は以下のとおりであった。

図表 3-2 利用状況の内訳

	福祉用具貸与サービス利用状況										
	1.利用継続中		2.利用中断期間があり再開した			3.利用中止			無回答		
	人数	割合	入院・入所	そのほか 無回答含む	自立	2:入院所	3:ADLの改善 (目標の達成 等)	4:福祉用具が 合わなかった	5:その他 無回答含む	割合	
1.H29年3月「継続」	752	100.0%	29 3.9%	28 3.7%	147 19.5%	8 1.1%	95 12.6%	6 0.8%	1 0.1%	37 4.9%	3 0.4%
2.H29年9月「新規」	872	100.0%	34 3.9%	32 3.7%	174 20.0%	10 1.1%	86 9.9%	21 2.4%	0 0.0%	57 6.5%	1 0.1%

(2) 要介護度

1) 要介護度別の人数と割合²

新規利用者と継続利用者共に、要介護度が軽い利用者が多く、「要支援 1」「要支援 2」「要介護 1」「要介護 2」をあわせると新規利用者 66.4%、継続利用者 70.2%であった。本調査対象の利用者は、介護予防および介護サービス受給者全体、福祉用具貸与サービス利用者全体と比較して、要介護 4、要介護 5 の割合が低かった。

図表 3-3 要介護度別人数（新規利用者・継続利用者）

要介護度	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
要支援1	91	66	13.7%	11.5%
要支援2	113	91	17.0%	15.9%
要介護1	108	110	16.3%	19.2%
要介護2	128	135	19.3%	23.6%
要介護3	83	79	12.5%	13.8%
要介護4	51	50	7.7%	8.7%
要介護5	25	27	3.8%	4.7%
申請中	58	3	8.7%	0.5%
欠損	6	12	0.9%	2.1%

要介護度	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
要支援1-2 要介護1-2	440	402	66.4%	70.2%
要介護3-5	159	156	24.0%	27.2%
申請中	58	3	8.7%	0.5%
欠損	6	12	1.4%	3.0%

(参考) 要介護状態区別介護サービス受給者数（厚生労働省 介護給付費等実態統計 平成 30 年 9 月審査分）

図表 3-4 要介護状態区別 介護予防および介護サービス受給者数（総数）

全体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
5017.5	276.8	443.3	1120	1062.1	824.3	744.4	543.9
100.0%	5.5%	8.8%	22.3%	21.2%	16.4%	14.8%	10.8%

(単位：千人)

図表 3-5 要介護状態区別 介護予防および介護サービス受給者数(福祉用具貸与サービス利用者)

全体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2197.7	171.4	316.9	382.5	547	347.9	258.9	171.8
100.0%	7.8%	14.4%	17.4%	24.9%	15.8%	11.8%	7.8%

(単位：千人)

²新規利用者は貸与開始時点、継続利用者は貸与開始 6 カ月後の要介護度

2) 要介護度の変化

初回調査時点の要介護度と、追跡調査の要介護度（新規利用者は12カ月後、継続利用者は18カ月後）の変化を分析した。次の図表は、縦に初回調査時点の要介護度を、横に追跡調査時点の要介護度をとり、集計した結果である。

新規利用者、追跡利用者共に、同じ要介護度を維持している利用者が多い。また、1段階軽度化する利用者と1段階重度化する利用者は、どの要介護度でも同程度であった。

図表 3-6 初回調査時点と追跡調査時点の要介護別人数（新規利用者・継続利用者）

新規利用者	総計										
	追跡調査時点 要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	追跡調査時点	
										要支援1	要支援2
総計	94	130	124	144	70	45	25	0	31		
要支援1	56	18	9	5	0	0	0	0	3		
要支援2	17	72	10	7	1	0	0	0	6		
要介護1	6	11	62	18	3	2	1	0	5		
要介護2	2	6	23	72	14	5	2	0	4		
要介護3	83	2	8	16	38	6	1	0	5		
要介護4	51	1	2	14	5	19	4	0	3		
要介護5	25	0	0	1	3	8	11	0	0		
申請中	58	7	6	11	6	5	5	0	5		
無回答	6	3	1	0	0	0	1	0	0		

継続利用者	総計										
	追跡調査時点 要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	無回答	追跡調査時点	
										要支援1	要支援2
総計	61	105	111	127	77	44	22	1	25		
要支援1	41	12	6	2	1	0	0	0	4		
要支援2	11	67	5	2	2	0	1	1	2		
要介護1	2	12	65	18	5	2	1	0	5		
要介護2	2	8	18	79	16	5	2	0	5		
要介護3	79	2	8	19	38	6	1	0	4		
要介護4	50	1	6	4	6	26	2	0	3		
要介護5	27	0	1	2	6	3	14	0	1		
申請中	3	0	1	0	1	1	0	0	0		
無回答	12	2	1	1	2	1	1	0	1		

(参考) 「平成 29 年度 介護給付費等実態調査の概況 (平成 29 年 5 月審査分～平成 30 年 4 月審査分)」 要介護(要支援)状態区分の変化

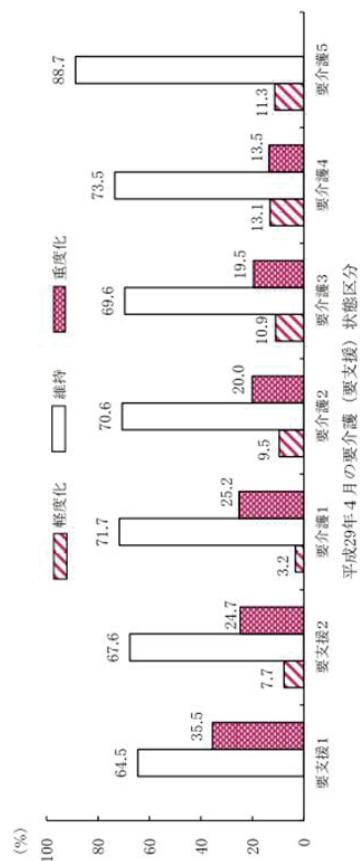
次の図表は、「平成 29 年度 介護給付費等実態調査の概況 (平成 29 年 5 月審査分～平成 30 年 4 月審査分)」における 1 年後の要介護度の変化割合と、変化を「軽度化」「維持」「重度化」に分類した割合である。要介護度を維持している割合がどの要介護度においても 65%以上と半数よりも多い人数であり、本分析対象とした福祉用具の継続的利用者と同様の傾向であった。しかし、「軽度化」「重度化」した割合については、本分析対象とした福祉用具の継続的利用者は、要介護度が 1 段階「軽度化」した利用者と「重度化」した利用者が同程度であったが、「平成 29 年度 介護給付費等実態調査の概況 (平成 29 年 5 月審査分～平成 30 年 4 月審査分)」においては要介護度 1 段階「軽度化」した割合より、「重度化」した割合の方が高い傾向であった。

図表 3-7 要介護(要支援)状態区分別にみた年間継続受給者数の変化別割合(要介護度)

	平成 30 年 3 月									
	総数	要支援1 (167.8千F人)	要支援2 (294.5千F人)	要介護1 (751.9千F人)	要介護2 (787.1千F人)	要介護3 (618.3千F人)	要介護4 (542.3千F人)	要介護5 (420.9千F人)		
総数	(100.0)	100.0	4.7	8.2	21.0	22.0	17.3	15.1	11.7	
平成	(5,582.7千F人)	(5.7)	100.0	64.5	18.4	12.6	3.0	0.9	0.5	0.1
年度	(205.7千F人)	(9.2)	100.0	7.7	67.6	15.1	6.9	1.6	0.9	0.2
29	(325.2千F人)	(23.0)	100.0	0.8	2.4	71.7	17.2	5.3	2.1	0.5
年	(827千F人)	(218)	100.0	0.3	1.2	8.0	70.6	13.8	4.8	1.4
4	(781.5千F人)	(16.6)	100.0	0.1	0.5	2.5	7.7	69.6	14.7	4.8
月	(693.6千F人)	(14.0)	100.0	0.1	0.3	1.5	3.2	7.9	73.5	13.5
	(501.9千F人)	(9.7)	100.0	0.0	0.1	0.4	0.9	1.9	7.9	88.7
	(348.0千F人)									

出典 厚生労働省「平成 29 年度 介護給付費等実態調査の概況 (平成 29 年 5 月審査分～平成 30 年 4 月審査分)」

図表 3-8 要介護(要支援)状態区分別にみた年間継続受給者数の変化別割合(軽度化・維持・重度化)

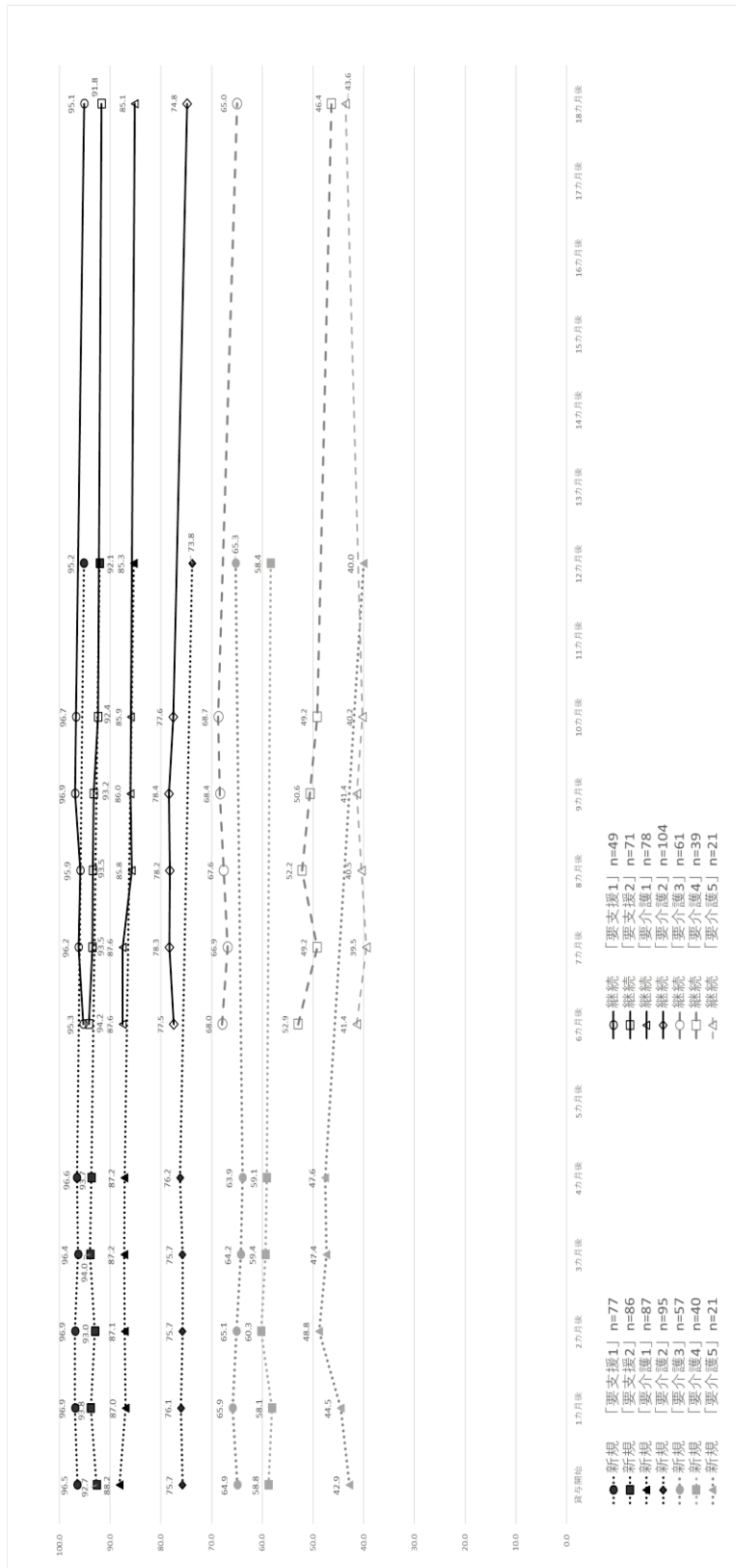


出典 厚生労働省「平成 29 年度 介護給付費等実態調査の概況 (平成 29 年 5 月審査分～平成 30 年 4 月審査分)」

3) Barthel Index 平均値推移

次の図表は、初回調査の要介護度別に、各回調査時点の Barthel Index の平均値の推移を示した。要介護度が重くなるにつれ、Barthel Index の平均値は低下するが、新規利用者も継続利用者どちらにおいても、時間が経過しても、ほとんどどの要介護度で初回調査時点の Barthel Index の平均値をほぼ維持している傾向が見られた。ただし「要介護度4」の継続利用者、「要介護度5」の新規利用者については、他の要介護度とは異なる傾向であった。「要介護度4」の継続利用者については、18 カ月後に平均値が約7点と初回調査時点の Barthel Index の平均値が低下しており、「要介護度5」の新規利用者については、貸与開始から2 カ月後に Barthel Index の平均値が約6点上昇し、その後12 カ月後に約9点低下した。

図表 3-9 Barthel Index 平均値推移 ※要介護度別



図表の BI は、Barthel Index

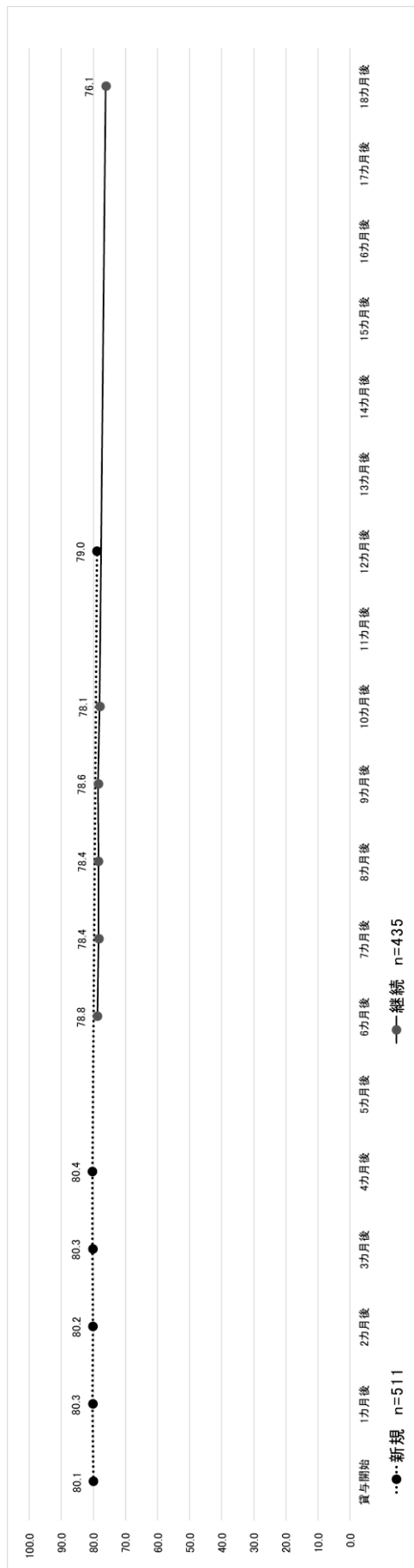
(3) Barthel Index について

1) Barthel Index 平均値の推移(全体)

集計対象の新規利用者、継続利用者について、各回調査時点の Barthel Index の平均値の推移を示した。

Barthel Index 平均値は、新規利用者の貸与開始から 12 カ月後までと、継続利用者の貸与開始から 18 カ月後までのいずれも大きな変化はなかった。

図表 3-10 Barthel Index 平均値推移



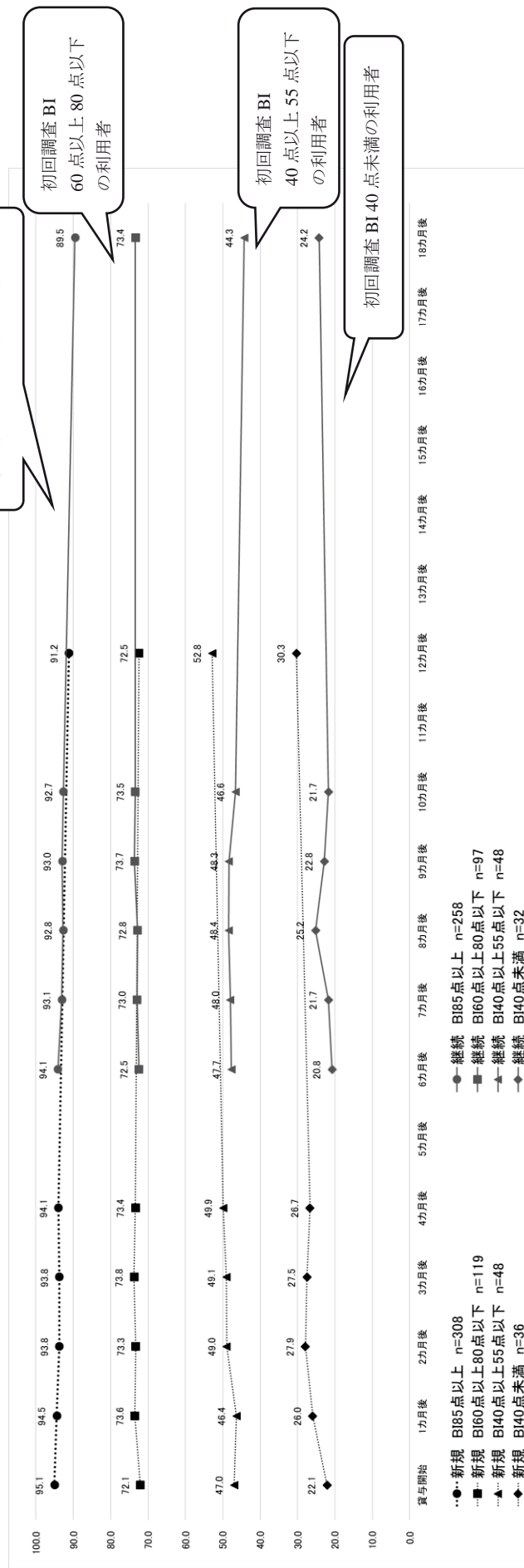
図表の BI は、Barthel Index

2) Bathel Index 平均値の推移 (初回調査の Bathel Index 点数群別)

初回調査 (新規利用者は貸与開始時点、継続利用者は貸与開始 6 カ月後) の Barthel Index 得点を「40 点未満」「40 点以上 55 点以下」「60 点以上 80 点以下」「85 点以上」の 4 群に分け、各回調査時点の Barthel Index の平均値の推移を示した。

「40 点未満」「40 点以上 55 点以下」の新規利用者の Barthel Index の平均値は、貸与開始後 12 カ月後にやや上昇した。「60 点以上 80 点以下」の新規利用者の Barthel Index の平均値は、貸与開始 12 カ月後もほとんど変化がなく、「85 点以上」についてはやや低下した。継続利用者の貸与開始 18 カ月後の Barthel Index の平均値については、「40 点以上 55 点以下」は新規利用者とは異なり低下傾向であったが、それは新規利用者と同様の傾向であった。

図表 3-11 Barthel Index 平均値推移 (初回調査の Barthel Index 点数群別)

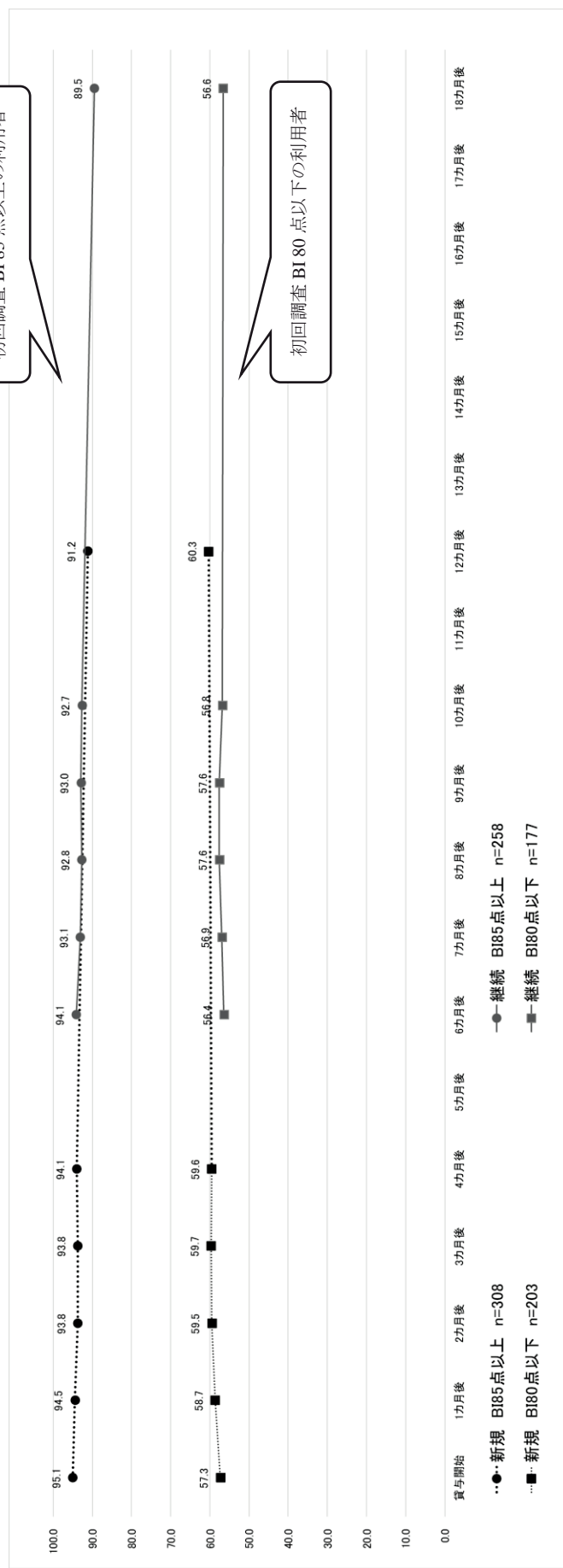


図表の BI は、Barthel Index

初回調査（新規利用者は貸与開始時点、継続利用者は貸与開始6カ月後。）の Barthel Index 得点を「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別にし、各回調査時点の Barthel Index の平均値の推移を示した。

「80 点以下」の新規利用者の Barthel Index の平均値は、12 カ月後にやや上昇した。「85 点以上」についてはやや低下した。「80 点以下」の継続利用者の 18 カ月後の Barthel Index の平均値はほとんど変わらず、「85 点以上」についてはやや低下した。

図表 3-12 Barthel Index 平均値推移（初回調査の Barthel Index 点数群別）
 ※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類

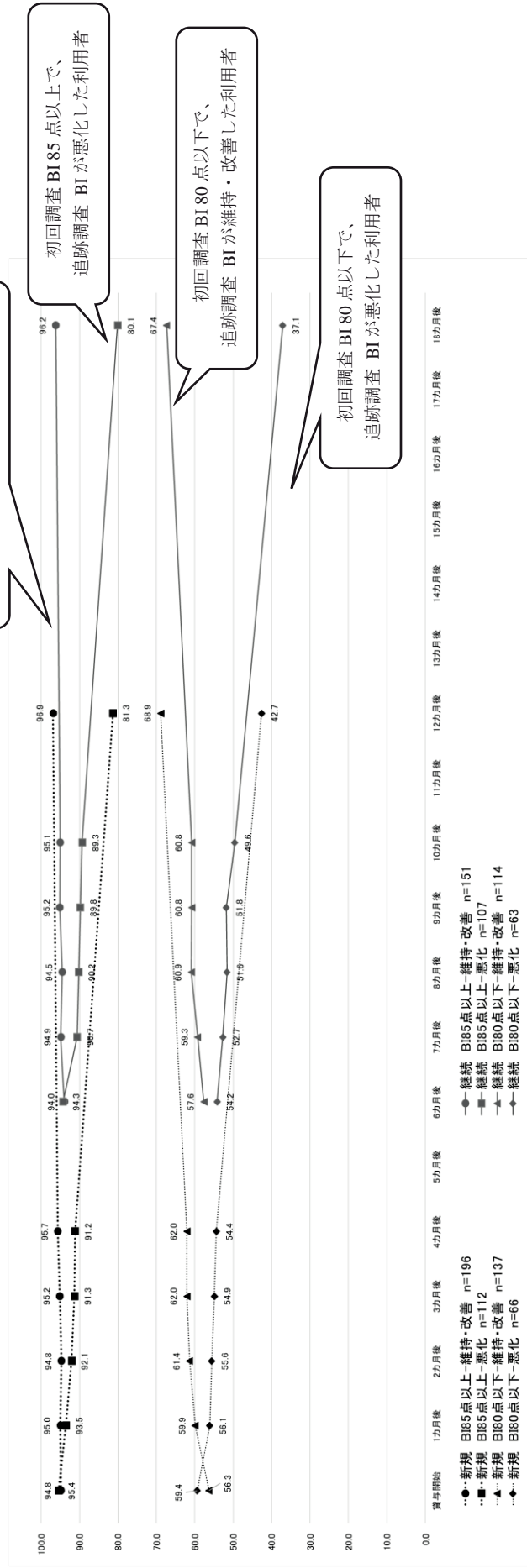


図表の BI は、Barthel Index

3) Barthel Index が「維持・改善」した利用者 と「悪化」した利用者別 Barthel Index 平均値の推移（初回調査の Barthel Index 点数群別）

初回調査と追跡調査時点（新規利用者は貸与開始 12 カ月後、継続利用者は貸与開始 18 カ月後）の Barthel Index を比較し、「維持・改善」と「悪化」に分類し、初回調査の Barthel Index を「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別の Barthel Index 平均値の推移を示した。新規利用者、継続利用者共に、時間の経過にもなって「維持・改善」と「悪化」の Barthel Index 平均値の差が大きくなっている。特に初回調査の Barthel Index 「80 点以下」では、維持・改善した群の Barthel Index 平均値が 10 点程度向上している。

図表 3-13 Barthel Index 平均値推移
※初回調査の Barthel-Index を「85 点以上」と「80 点以下」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

4) Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移 (初回調査の Barthel Index 点数群別)

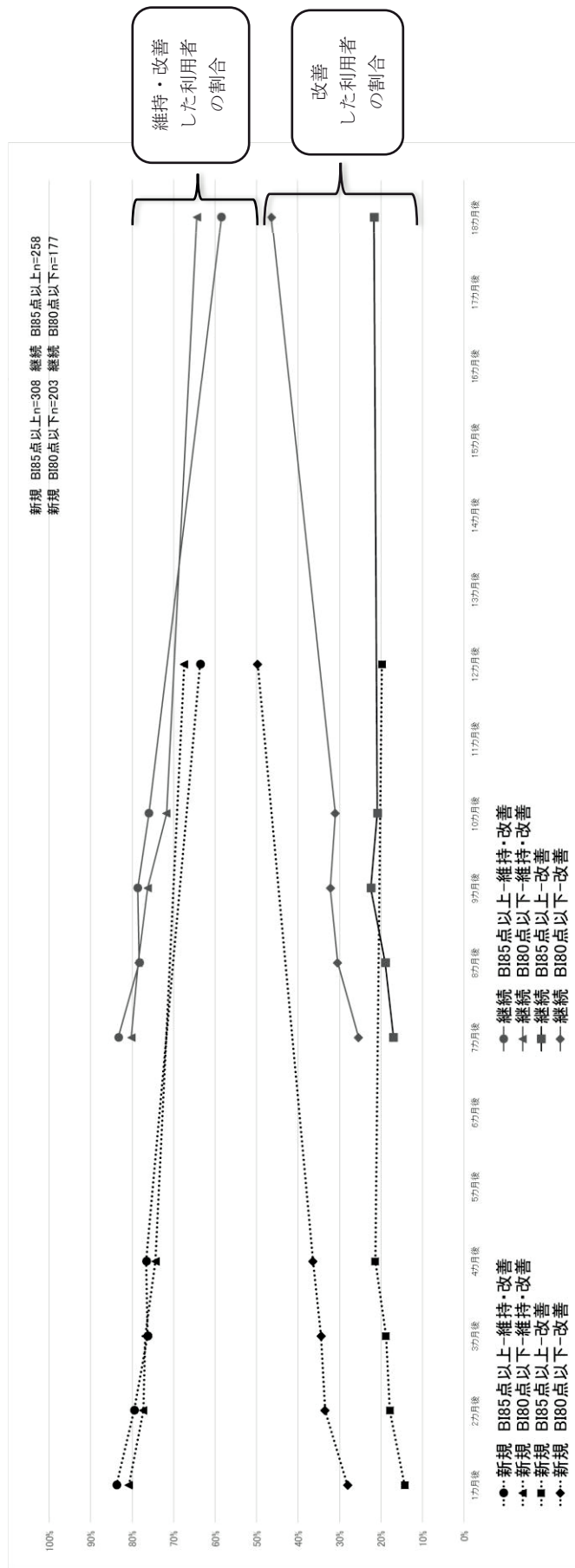
初回調査の Barthel Index と各回の調査の Barthel Index を比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を、初回調査の Barthel Index を「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

新規利用者、継続利用者共に、初回調査の Barthel Index 「85 点以上」の群は初回調査時点で得点が高いため、「維持・改善」した利用者の割合の低下幅が大きい。「80 点以下」の群は、新規利用者では貸与開始 12 カ月後に Barthel Index の改善した利用者の割合は 49.8%、継続利用者では貸与開始 18 カ月後に Barthel Index が改善した利用者の割合は 46.3%であった。福祉用具の利用開始時点で ADL が低かった群では利用開始から 12 カ月後、18 カ月後に半数程度の利用者の Barthel Index が改善していた。

図表 3-14 Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移

※初回調査時点と比較した維持・改善

※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

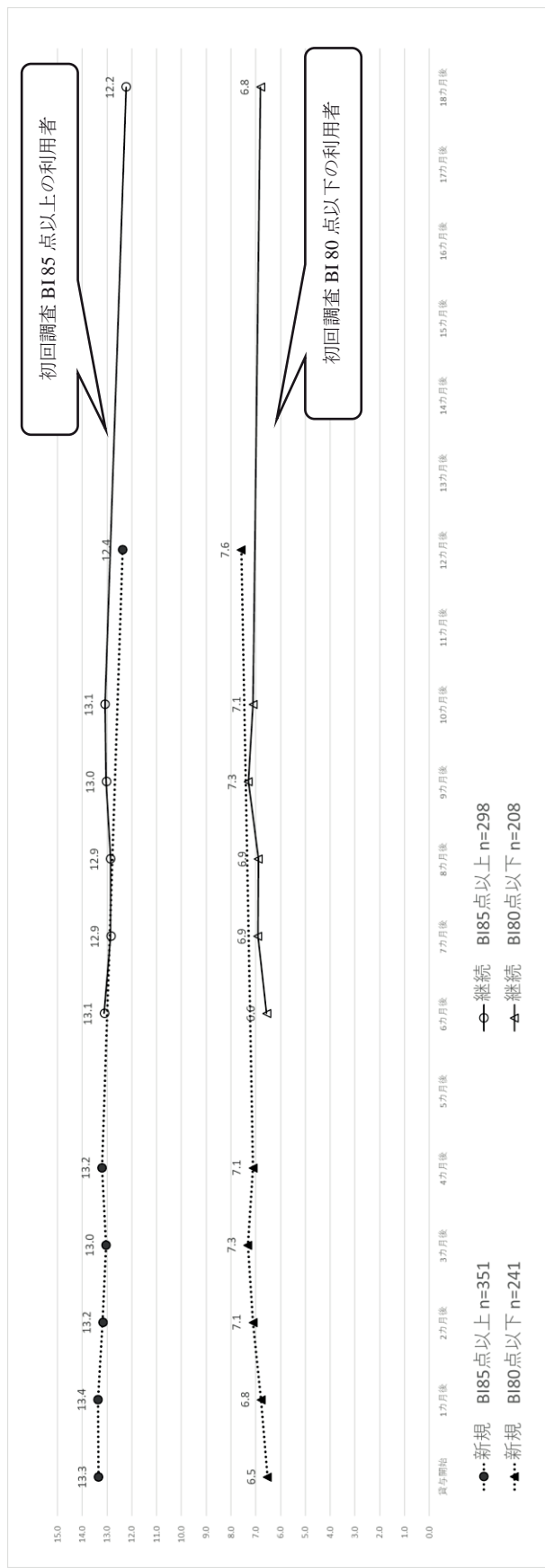
5) 「歩行」の平均値の推移

Barthel Index のうち「歩行」の得点の平均値の推移を、初回調査の Barthel Index（各動作得点の合計）が「80点以下」「85点以上」の2群別に示した。

「80点以下」の新規利用者は、約7点程度を推移し、貸与開始12カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。「85点以上」の新規利用者は、約13点程度を推移し、貸与開始12カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。継続利用者についても、同様であった。

図表 3-15 「歩行」の得点の平均値推移

※初回調査の Barthel-Index を「80点以下」と「85点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

6) 「歩行」が維持・改善した利用者の割合の推移

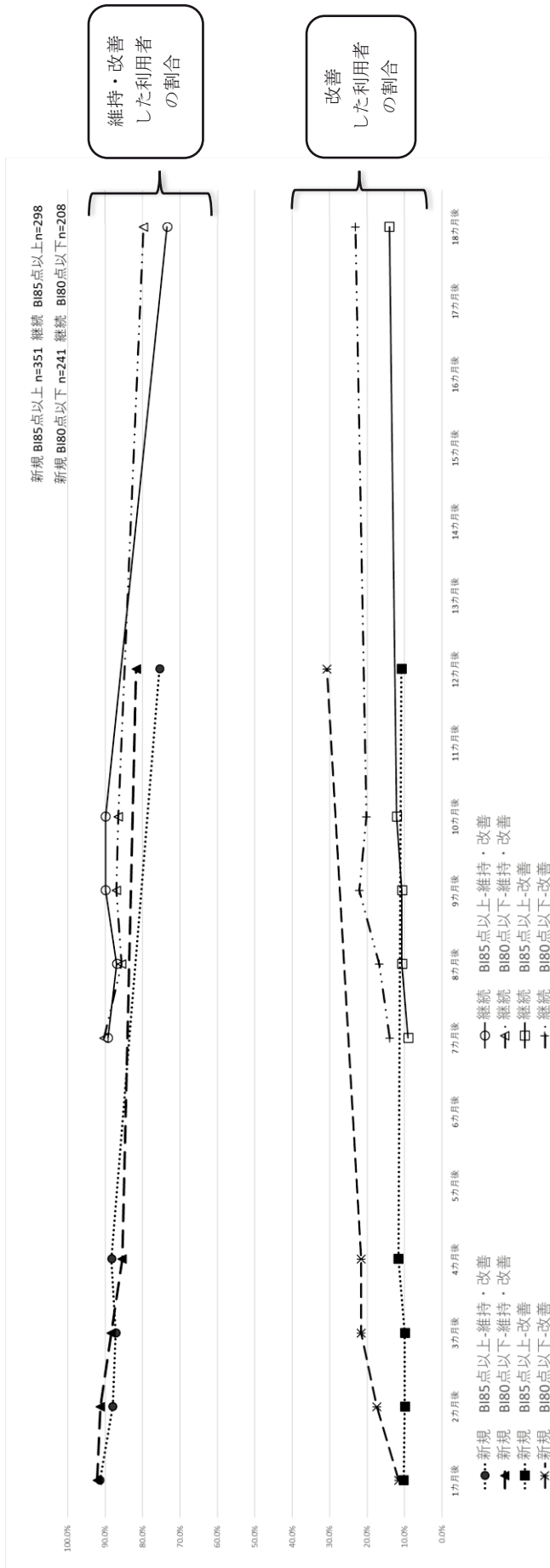
Barthel Index のうち「歩行」の得点について、初回調査と各回の調査時点で比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を、初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80点以下」「85点以上」の2群別に示した。

初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「85点以上」の群については、新規利用者は貸与開始から4カ月後まで、継続利用者は貸与開始10カ月後までは、約90%程度の利用者が「歩行」の得点を維持・改善しており、その後、その割合は低下するが、それぞれ12カ月後、18カ月後も70%以上の利用者が維持・改善していた。そのうち改善した利用者の割合は、約10%を推移した。

初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80点以下」の群については、新規利用者、継続利用者とともに、時間が経過しても約80%程度の利用者が「歩行」の得点を維持・改善している。そのうち改善した利用者の割合を見ると、新規利用者では貸与開始1カ月後の約10%から徐々に上昇し、12カ月後に改善している割合は約30%であった。継続利用者については、貸与開始7カ月後の約10%から徐々に上昇し、18カ月後に改善している割合は約20%であった。

「歩行」の得点は、福祉用具を利用している期間を通じて高い割合で維持、改善され、特に利用開始時点で ADL が低かった群では改善する割合が高いことが確認された。

図表 3-16 「歩行」の得点が維持・改善した利用者の割合の推移
 ※初回調査時点と比較した維持・改善
 ※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



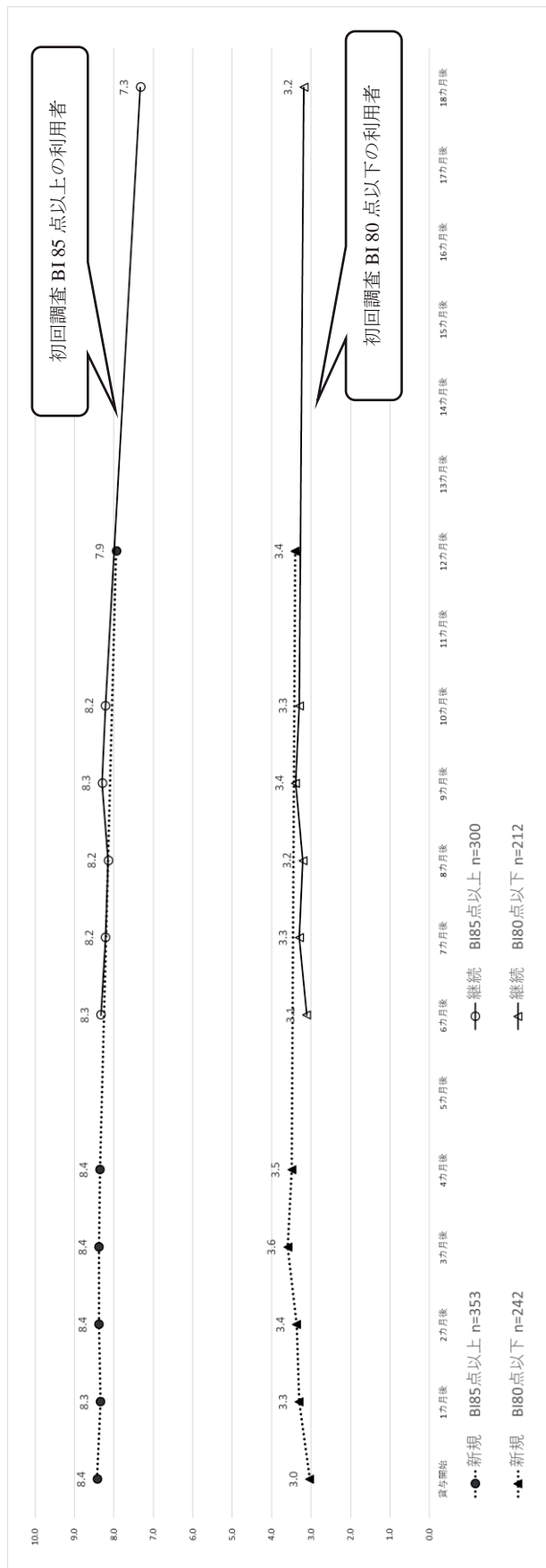
図表の BI は、Barthel Index

7) 「階段昇降」の平均値の推移

Barthel Index のうち「階段昇降」の得点の平均値の推移を、初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80 点以下」「85 点以上」の 2 群別に示した。

「80 点以下」の新規利用者は、約 3 点程度を推移し、貸与開始 12 カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。「85 点以上」の新規利用者は、約 8 点程度を推移し、貸与開始 12 カ月後にもほぼ同程度の点数を保っていた。継続利用者についても、同様であった。

図表 3-17 「階段昇降」の得点の平均値推移
 ※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

8) 「階段昇降」が維持・改善した利用者の割合の推移（初回調査の Barthel Index 点数群別）

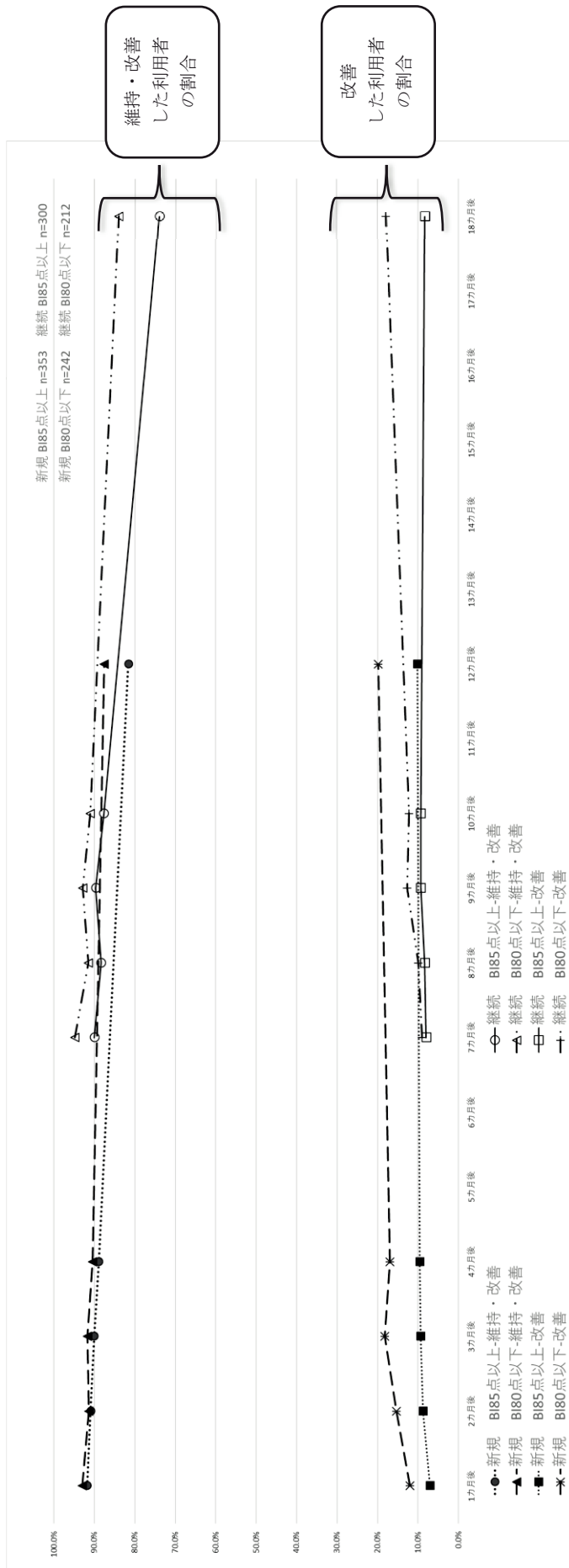
Barthel Index のうち「階段昇降」の得点について、初回調査と各回の調査時点で比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を、初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80点以下」「85点以上」の2群別に示した。

初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「85点以上」の群については、新規利用者は貸与開始から4カ月後まで、継続利用者は貸与開始10カ月後までは、約90%程度の利用者が階段昇降の得点を維持・改善しており、その後、その割合は低下するが、新規利用者は80%以上、継続利用者は70%以上の利用者が維持・改善していた。そのうち改善した利用者の割合は、約10%を推移した。

初回調査の Barthel Index 得点（各動作得点の合計）が「80点以下」の群については、新規利用者、継続利用者ともに、時間が経過しても約80%程度の利用者が階段昇降の得点を維持・改善している。そのうち改善した利用者の割合を見ると、新規利用者では貸与開始1カ月後の約10%から徐々に上昇し、12カ月後に改善している割合は約20%であった。継続利用者についても同様であった。

階段昇降の得点は、福祉用具を利用している期間を通じて高い割合で維持、改善され、特に利用開始時点で Barthel Index 得点が低かった群では改善する割合が高いことが確認された。

図表 3-18 「階段昇降」の得点が維持・改善した利用者の割合の推移
 ※初回調査時点と比較した維持・改善
 ※初回調査の Barthel-Index を「80 点以下」と「85 点以上」の群に分類



図表の BI は、Barthel Index

(4) 疾患について

1) 疾患の状況

疾患の状況³については、新規利用者、継続利用者共になんらかの疾患を持つ利用者の割合は80%程度であった。

疾患別では、骨関節疾患は新規利用者22.8%、継続利用者23.9%、脳血管疾患は新規利用者17.1%、他の各疾患については10%に満たなかった。そのため、疾患が全くない「疾患なし」、骨関節疾患だけが「他の疾患あり」に分類して集計した。「脳血管疾患のみ」「脳血管疾患のみ」以外の疾患は、人数が少ないため「その他疾患あり」に分類した。(「骨関節疾患のみ」21.0%、「骨関節疾患のみ」18.1%、「脳血管疾患のみ」12.5%、「その他疾患あり」48.4%であった。継続利用者は「疾患なし」19.7%、「骨関節疾患のみ」18.3%、「脳血管疾患のみ」11.7%、「その他疾患あり」50.3%であった。

図表 3-19 疾患状況 初回調査時点（新規利用者は貸与開始時、継続利用者は貸与開始から6カ月後）

疾患状況	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
疾患なし	139	113	21.0%	19.7%
骨関節疾患のみ	120	105	18.1%	18.3%
脳血管疾患のみ	83	67	12.5%	11.7%
その他疾患あり	321	288	48.4%	50.3%

※各疾患が欠損の場合は、なしとみなす

³初回調査時点（新規利用者は貸与開始時、継続利用者は貸与開始から6カ月後）の疾患について分析したもの

(疾患別)

骨関節疾患	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	151	137	22.8%	23.9%
0.なし	475	389	71.6%	67.9%
欠損	37	47	5.6%	8.2%

心疾患	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	57	61	8.6%	10.6%
0.なし	564	459	85.1%	80.1%
欠損	42	53	6.3%	9.2%

がん	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	22	22	3.3%	3.8%
0.なし	595	496	89.7%	86.6%
欠損	46	55	6.9%	9.6%

呼吸器系疾患	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	23	18	3.5%	3.1%
0.なし	595	500	89.7%	87.3%
欠損	45	55	6.8%	9.6%

脳血管疾患	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	119	98	17.9%	17.1%
0.なし	508	427	76.6%	74.5%
欠損	36	48	5.4%	8.4%

パーキンソン病	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	25	28	3.8%	4.9%
0.なし	593	489	89.4%	85.3%
欠損	45	56	6.8%	9.8%

その他進行性疾患	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	20	17	3.0%	3.0%
0.なし	597	500	90.0%	87.3%
欠損	46	56	6.9%	9.8%

その他	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
1.あり	189	168	28.5%	29.3%
0.なし	443	362	66.8%	63.2%
欠損	31	43	4.7%	7.5%

(参考) 65 歳以上の要介護者等の性別にみた介護が必要となった主な原因 (厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成 28 年))

図表 3-20 65 歳以上の要介護者等の性別にみた介護が必要となった主な原因

性別	原因					その他・不明・不詳
	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	関節疾患	認知症	骨折・転倒	
総数	15.1	4.7	10.2	18.7	12.5	13.8
男性	23	5.4	5.4	15.2	7.1	10.6
女性	11.2	4.3	12.6	20.5	15.2	15.4
						24.9
						33.2
						20.7

(単位: %)

2) 疾患状況別の Barthel Index の変化

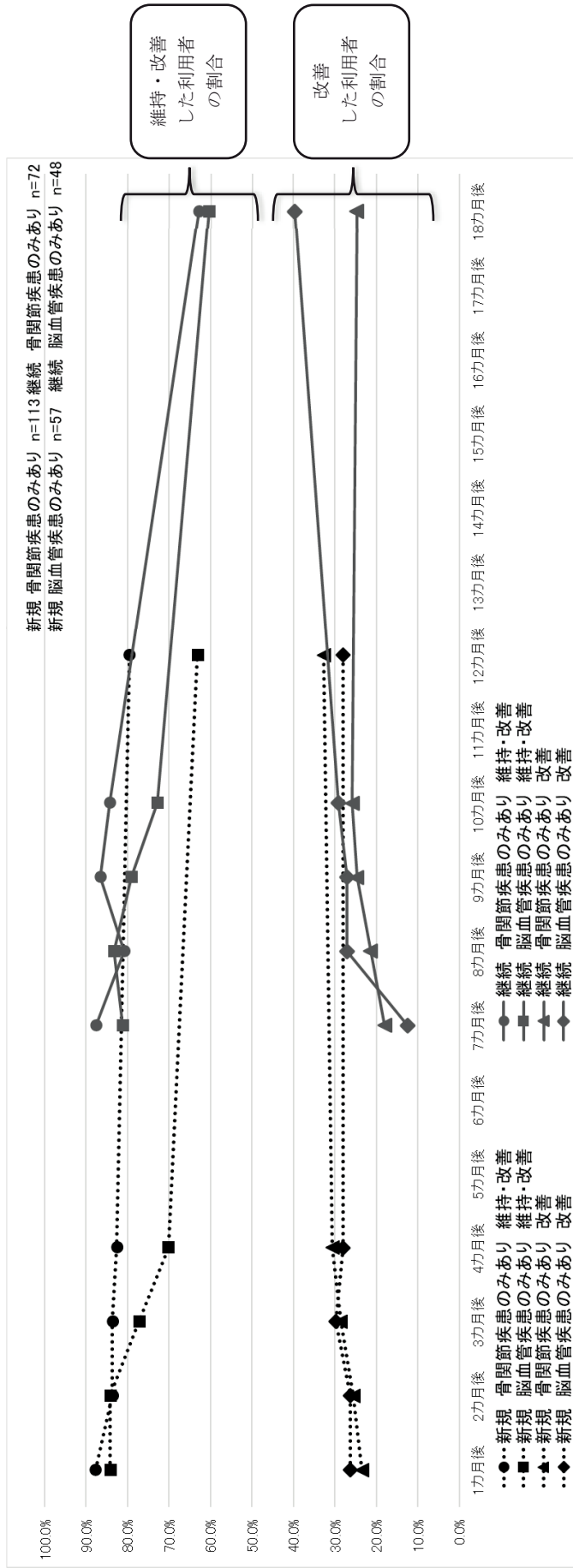
調査対象において比較的多い疾患である「骨関節疾患のみあり」と「脳血管疾患のみあり」について、Barthel Index の変化を分析した。次の図表は、初回調査の Barthel Index と各回調査の Barthel Index を比較し、「維持・改善した利用者の割合」とそのうちの「改善した利用者の割合」の推移を示した。

「骨関節疾患のみあり」の新規利用者は、貸与開始 1 カ月後から 4 カ月後まで Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は 80%以上を保っており、12 カ月後も同様に約 80%であった。改善した利用者の割合は、貸与開始 1 カ月後から 4 カ月後まで徐々に上昇し、4 カ月後には 28.1%で、12 カ月後には 32.7%となった。高齢者のため徐々に Barthel Index は低下するものの、骨関節疾患があっても 12 カ月後も約 80%が維持・改善している。また、その中でも改善している利用者は、徐々に多くなっており、骨関節疾患がある場合の福祉用具の利用が、ADL の維持・改善に有効であることが推測される。

継続利用者についても同じ傾向が見られ、貸与開始 6 カ月後の状態を 10 カ月後まで維持・改善している利用者の割合は、80%以上だった。しかし、福祉用具貸与 18 カ月後と時間が経過した時点では、Barthel Index を維持・改善した利用者の割合は約 60%と低くなった。

新規、継続共に「脳血管疾患のみあり」の利用者は少ないが、Barthel Index の維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 12 カ月後には 63.2%に低下した。継続利用者についても同様の傾向で、貸与開始 6 カ月後の状態を 9 カ月後まで維持・改善している利用者の割合は 80%程度、貸与開始 18 カ月後には 60.4%であった。継続利用者のうち改善した利用者の割合は、貸与開始 18 カ月後には 39.6%であった。

図表 3-21 疾患状況別 Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移
 ※初回調査時点と比較した維持・改善



(5) 福祉用具導入のきっかけについて

1) 福祉用具導入のきっかけ

福祉用具導入のきっかけ⁴⁾は、「医療施設からの退所・退院」が多く新規利用者 41.9%、継続利用者 40.7%であった。次いで、「介護保険の新規申請」が多く新規利用者 29.3%、継続利用者 35.1%であった。「医療施設からの退所・退院」がきっかけで福祉用具を貸与した利用者について、要介護度を見ると、「要支援 1-2」「要介護 1-2」「要介護 1-2」が半数程度、疾患状況については、「その他疾患あり」の利用者が半数程度であった。

図表 3-22 福祉用具導入のきっかけ 初回調査時点（新規利用者は貸与開始から 6 カ月後）

用具導入のきっかけ	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
医療施設等からの退所・退院	278	233	41.9%	40.7%
介護保険の新規申請	194	201	29.3%	35.1%
その他	170	119	25.6%	20.8%
欠損	21	20	3.2%	3.5%

用具導入のきっかけ×介護度	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
医療施設等からの退所・退院	278	233	41.9%	40.7%
要支援 1-2・要介護 1-2	132	126	19.9%	22.0%
要介護 3-5	119	100	17.9%	17.5%
申請中	26	1	3.9%	0.2%
欠損	1	6	0.2%	1.0%
介護保険の新規申請	194	201	29.3%	35.1%
要支援 1-2・要介護 1-2	148	160	22.3%	27.9%
要介護 3-5	21	35	3.2%	6.1%
申請中	22	2	3.3%	0.3%
欠損	3	4	0.5%	0.7%
その他	170	119	25.6%	20.8%
欠損	21	20	3.2%	3.5%

用具導入のきっかけ×疾患状況	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	663	573	100.0%	100.0%
医療施設等からの退所・退院	278	233	41.9%	40.7%
疾患なし	37	36	5.6%	6.3%
骨関節疾患のみ	47	34	7.1%	5.9%
脳血管疾患のみ	55	48	8.3%	8.4%
その他疾患あり	110	115	16.6%	20.1%
欠損	29	0	4.4%	0.0%
介護保険の新規申請	194	201	29.3%	35.1%
疾患なし	47	50	7.1%	8.7%
骨関節疾患のみ	38	41	5.7%	7.2%
脳血管疾患のみ	10	12	1.5%	2.1%
その他疾患あり	79	98	11.9%	17.1%
欠損	20	0	3.0%	0.0%
その他	170	119	25.6%	20.8%
欠損	21	20	3.2%	3.5%

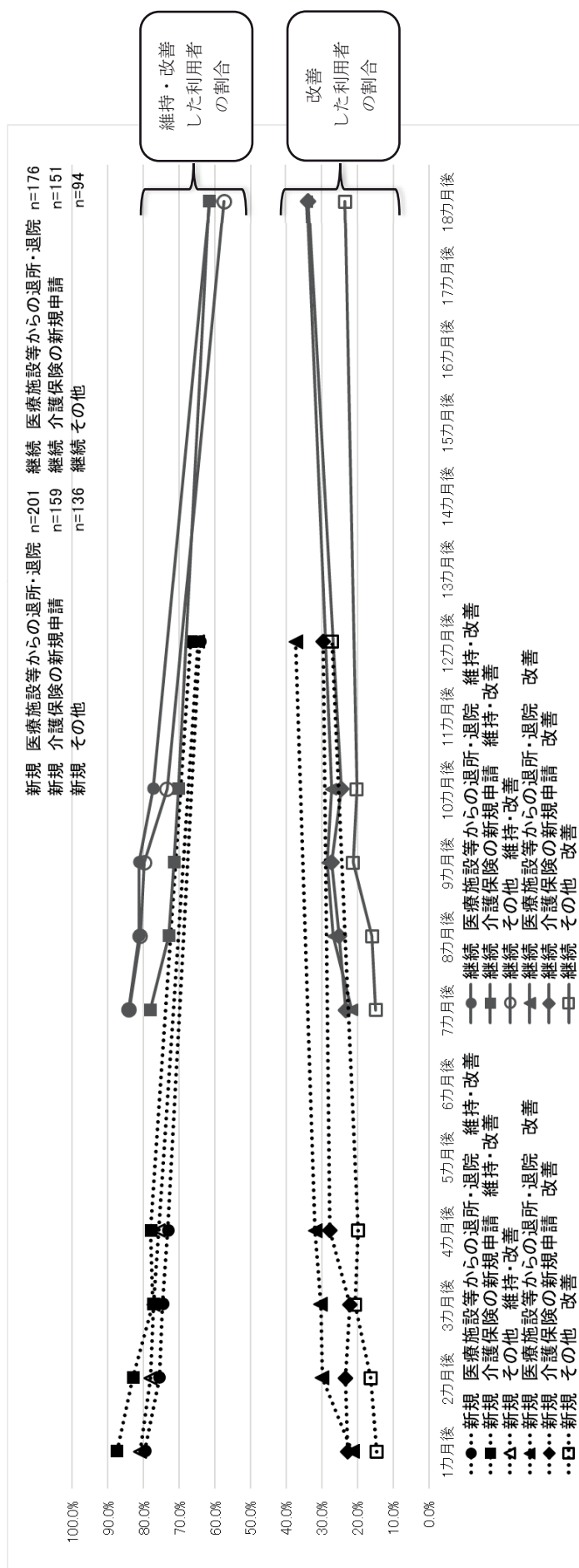
4 ※初回調査時点（新規利用者は貸与開始時、継続利用者は貸与開始から 6 カ月後）に把握したものの。

2) 福祉用具導入のきっかけ別 Barthel Index の変化

福祉用具導入のきっかけ別に、初回調査の Barthel Index と各回調査の Barthel Index を比較し、維持・改善した利用者の割合とその他の改善の割合の推移を示した。

「医療施設からの退所・退院」がきっかけで福祉用具を貸与した新規利用者は、貸与開始 1 カ月後より 2 カ月後の Barthel Index の改善割合が高く 29.9%、その後も同割合程度の利用者が改善しており、12 カ月後には 37.3%となった。**医療施設からの退所・退院後は、日常生活の動作についての改善割合が比較的高く、福祉用具を利用することが改善の一つの助けになっていると推測される。**

図表 3-23 福祉用具導入のきっかけ別 Barthel Index 得点が維持・改善した利用者の割合の推移 ※初回調査時点と比較した維持・改善



3) 医療施設からの退所退院利用者における要介護度別 Barthel Index の変化

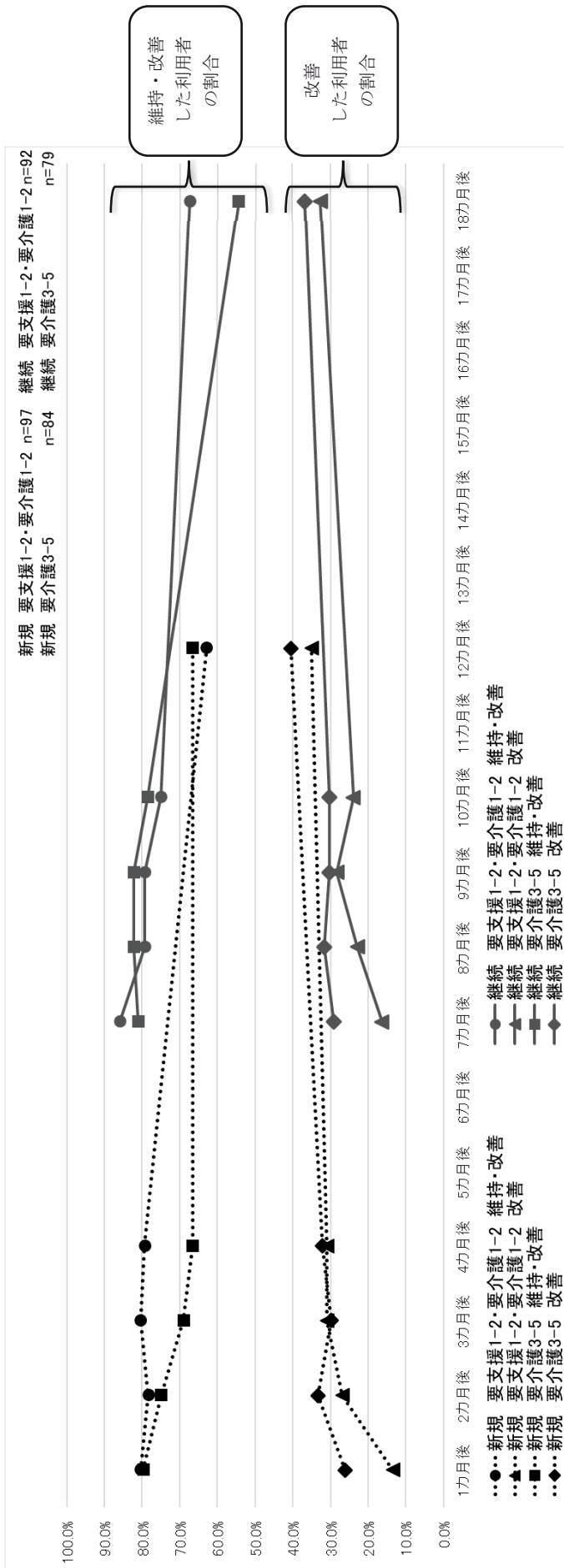
「医療施設からの退所・退院」がきっかけで福祉用具を貸与した利用者について、「要支援 1-2・要介護 1-2」の2群に分類し、初回調査の Barthel Index と各回の調査の Barthel Index を比較して維持・改善した利用者の割合およびそのうちの改善した利用者の割合の推移を示した。

「要支援 1-2・要介護 1-2」の新規利用者のうち、維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 4 カ月後まで 80%程度を保ち、その後 12 カ月後には 62.9%となった。継続利用者については、貸与開始 6 カ月後の状態を維持・改善している利用者の割合は貸与開始 10 カ月後まで 80%程度で、その後 12 カ月後には 67.4%となった。

「要介護 3-5」の利用者のうち維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 1 カ月後は 79.8%であるが、その後 2 カ月後には 75.0%、4 カ月後には 66.7%と低下し、12 カ月後には 66.7%となった。継続利用者は、貸与開始 6 カ月後の状態を維持・改善している利用者の割合は貸与開始 10 カ月後まで 80%程度で、その後 12 カ月後には 54.4%となった。

要介護度が軽い利用者は、医療施設からの退所退院後に福祉用具を利用して自身で活動しており、ADL の維持・改善傾向が高いと推測される。要介護度が重い利用者は、介護者の負担軽減のために福祉用具を利用していることが多いため、ADL の維持・改善傾向が低いと推測される。

**図表 3-24 医療機関等からの退院・退所をきっかけとした利用者における
要介護度別 Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移**
※初回調査時点と比較した維持・改善



(6) 福祉用具別の利用状況について

1) 福祉用具の利用状況

貸与している福祉用具を、「歩行を補助する福祉用具」「車いすによる移動を支援する福祉用具」「起居を介助する福祉用具」に分類して、用具の併用状況を集計した。

「歩行を補助する福祉用具」は、手すり、歩行器、歩行補助つえとし、いずれかの福祉用具を利用している利用者を「歩行補助関連用具」の利用者とした。また、「車いすによる移動を支援する福祉用具」は、車いす・車いす付属品、スロープを「車いす関連用具」、「起居を介助する福祉用具」としては、特殊寝台・特殊寝台付属品、床ずれ防止用具を特殊寝台関連用具とし、各関連用具いずれかの利用者をそれぞれ「車いす関連用具」の利用者、「特殊寝台関連用具」の利用者とした。

貸与開始から4カ月間とその後12カ月後も「歩行補助関連用具」を継続して利用した新規利用者は67.9%、貸与開始6カ月後から4カ月間とその後12カ月後も「歩行補助関連用具」を継続して利用した継続利用者は65.4%だった。そのうち、「車いす関連用具」、「特殊寝台関連用具」を共に利用しなかった利用者が多かった。

集計対象は、要介護度が低い利用者が多いため、「歩行補助関連用具」を利用している割合が高く、「車いす関連用具」や「特殊寝台関連用具」の利用者は少なかったと考えられる。「歩行補助関連用具」を全く利用していない、または継続的には利用しなかった利用者は、「車いす関連用具」、「特殊寝台関連用具」の利用者が多かった。

「歩行補助関連用具」を継続的に利用し、「車いす関連用具」や「特殊寝台関連用具」を利用しなかった利用者の要介護度を見ると、「要支援1-2」「要介護1-2」がほとんどで、新規利用者85.1%、継続利用者92.1%であった。「歩行補助関連用具」を継続的に利用しておらず、「車いす関連用具」や「特殊寝台関連用具」の利用者の要介護度は、「要介護3-5」の新規利用者38.2%、継続利用者49.7%であった。

図表 3-25 福祉用具の併用利用状況

用具の併用利用状況	貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後)から4カ月間と12カ月後の利用状況		人数		%	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続
歩行補助関連用具	663	573	100.0%	100.0%		
車いす関連用具	450	375	67.9%	65.4%		
車いす関連用具を継続利用	26	20	3.9%	3.5%		
車いす関連用具を継続利用	30	32	4.5%	5.6%		
特殊寝台関連用具を継続利用	40	49	6.0%	8.6%		
車いす関連用具・特殊寝台関連用具共に利用なし	268	203	40.4%	35.4%		
その他	86	71	13.0%	12.4%		
歩行補助関連用具	92	93	13.9%	16.2%		
車いす関連用具、特殊寝台関連用具と共に継続利用	19	27	2.9%	4.7%		
車いす関連用具を継続利用	21	12	3.2%	2.1%		
特殊寝台関連用具を継続利用	43	49	6.5%	8.6%		
車いす関連用具・特殊寝台関連用具共に利用なし	0	0	0.0%	0.0%		
その他	9	5	1.4%	0.9%		
歩行補助関連用具	121	105	18.3%	18.3%		
車いす関連用具、特殊寝台関連用具と共に継続利用	23	17	3.5%	3.0%		
車いす関連用具を継続利用	16	14	2.4%	2.4%		
特殊寝台関連用具を継続利用	29	19	4.4%	3.3%		
車いす関連用具・特殊寝台関連用具共に利用なし	22	21	3.3%	3.7%		
その他	31	34	4.7%	5.9%		
	人数		%			
	新規	継続	新規	継続		
「歩行補助関連用具」継続の利用 & 「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」共に利用なし	268	203				
「歩行補助関連用具」継続的に利用していない & 「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」利用あり	191	177				

「歩行補助関連用具」継続の利用 & 「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」共に利用なし	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	268	203	100.0%	100.0%
要支援 1-2	139	106	51.9%	52.2%
要介護 1-2	89	81	33.2%	39.9%
要介護 3-5	18	11	6.7%	5.4%
申請中	19	0	7.1%	0.0%
欠損	3	5	1.1%	2.5%

※介護度の時点：新規利用者は貸与開始時、継続利用者は貸与開始から6カ月後

「歩行補助関連用具」継続的に利用していない & 「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」利用あり	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	191	177	100%	100%
要支援 1-2	23	17	12.0%	9.6%
要介護 1-2	74	65	38.7%	36.7%
要介護 3-5	73	88	38.2%	49.7%
申請中	20	2	10.5%	1.1%
欠損	1	5	0.5%	2.8%

※介護度の時点：新規利用者は貸与開始時、継続利用者は貸与開始から6カ月後

(参考)

歩行補助用具の利用状況 ※手すり、歩行器、歩行補助つえ

貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後) から4カ月間の利用状況	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	1,325	1,081	100.0%	100.0%
全く貸与なし	237	217	17.9%	20.1%
1度でも貸与あり	1,088	864	82.1%	79.9%
4カ月間継続して利用あり	921	743	69.5%	68.7%
内)4カ月間継続してよく利用	463	562	34.9%	52.0%
その他	167	121	12.6%	11.2%

	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
4カ月間継続して利用あり	921	743	69.5%	68.7%
内)12カ月後も利用あり	450	375	34.0%	34.7%
4カ月間継続して利用あり	463	562	34.9%	52.0%
内)12カ月後も利用あり	224	266	16.9%	24.6%

車いす関連用具の利用状況 ※車いす・車いす付属品、スロープ

貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後) から4カ月間の利用状況	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	1,325	1,081	100.0%	100.0%
全く貸与なし	894	724	67.5%	67.0%
1度でも貸与あり	431	357	32.5%	33.0%
4カ月間継続して利用あり	270	241	20.4%	22.3%
内)4カ月間継続してよく利用	134	173	10.1%	16.0%
その他	161	116	12.2%	10.7%

	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
4カ月間継続して利用あり	270	241	20.4%	22.3%
内)12カ月後も利用あり	135	122	10.2%	11.3%
4カ月間継続して利用あり	134	173	10.1%	16.0%
内)12カ月後も利用あり	62	79	4.7%	7.3%

特殊寝台関連用具の利用状況 ※特殊寝台・特殊寝台付属品、床ずれ防止用具

貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後) から4カ月間の利用状況	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	1,325	1,081	100.0%	100.0%
全く貸与なし	797	584	60.2%	54.0%
1度でも貸与あり	528	497	39.8%	46.0%
4カ月間継続して利用あり	397	399	30.0%	36.9%
内)4カ月間継続してよく利用	248	331	18.7%	30.6%
その他	131	98	9.9%	9.1%

	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
4カ月間継続して利用あり	397	399	30.0%	36.9%
内)12カ月後も利用あり	180	181	13.6%	16.7%
4カ月間継続して利用あり	248	331	18.7%	30.6%
内)12カ月後も利用あり	108	141	8.2%	13.0%

2) 「歩行補助関連用具」継続的利用かつ「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」共に利用なしの利用者について

「歩行補助関連用具」を継続して利用し「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」を共に利用しなかった利用者について、初回調査の Barthel Index と各回の調査の Barthel Index を比較し、維持・改善している利用者の割合とその他の改善している利用者の割合の推移を、初回調査時点の Barthel Index 「85 点以下」「90 点以上 95 点以下」「100 点」に分類して分析した。

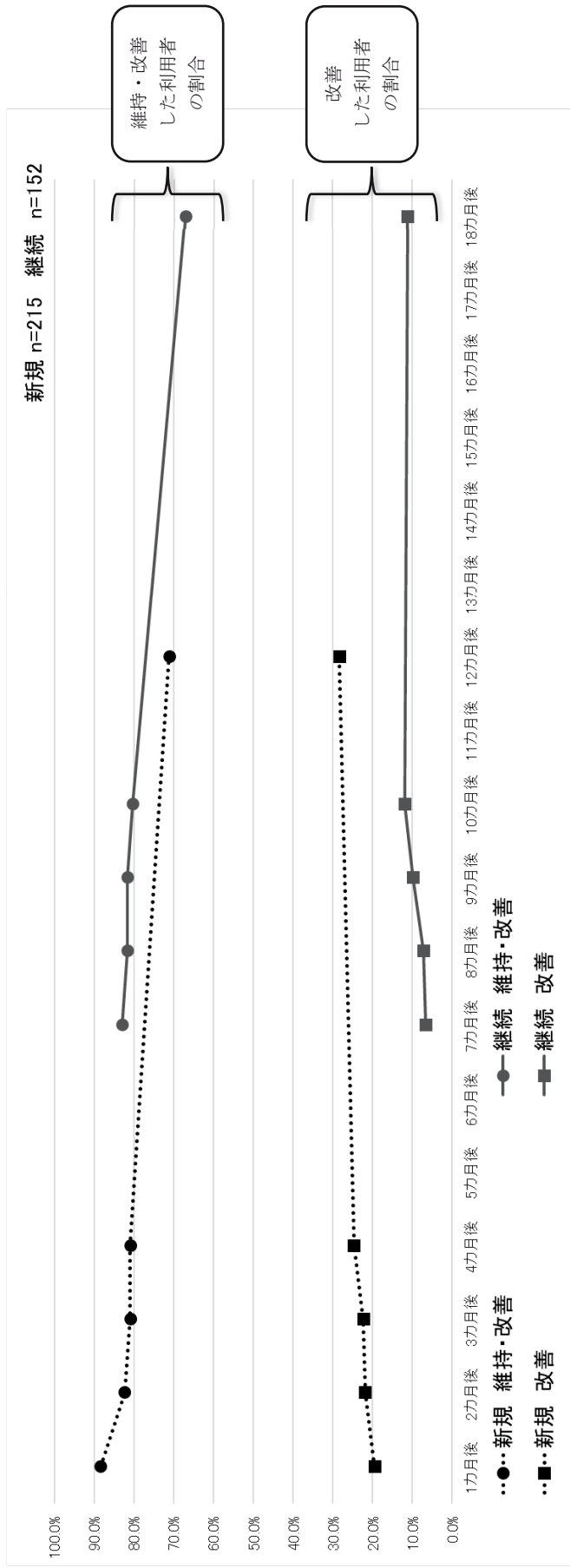
新規利用者で Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は、貸与開始から 4 カ月後まで 80%以上を保ち、12 カ月後には 71.2%となった。継続利用者で貸与開始 6 カ月の状態を維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 10 カ月後まで 80%以上を保ち、18 カ月後には 67.1%となった。

Barthel Index を「85 点以下」「90 点以上 95 点以下」「100 点」に分類して分析した場合、新規利用者は「90 点以上 95 点以下」と満点の「100 点」の割合が多く、各 40%程度だった。「90 点以上 95 点以下」で Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 12 カ月後まで 70%程度を保った。改善した利用者の割合は 12 カ月後には 61.7%と高かった。初回の Barthel Index が満点の「100 点」を維持した利用者の割合は、貸与開始 4 カ月後まで 90%程度と高い割合を保ち、貸与開始 12 カ月後には 71.1%となった。

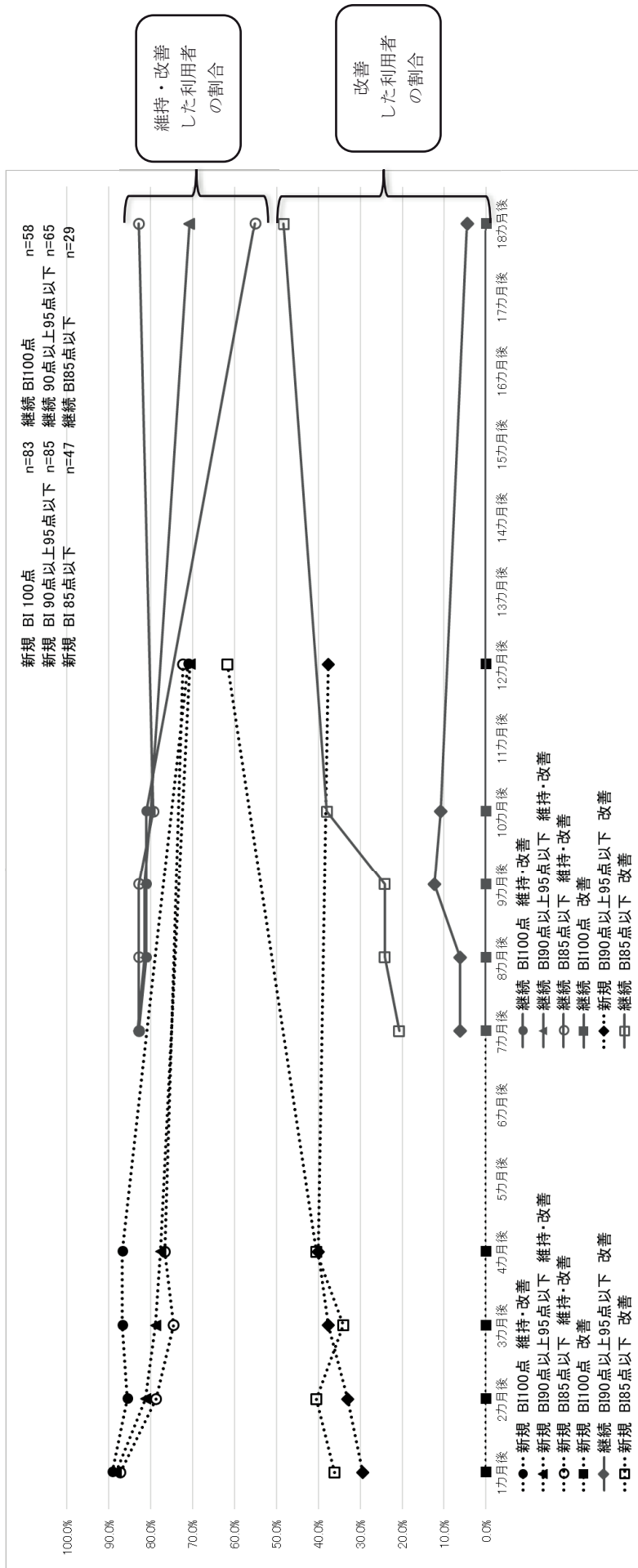
「歩行補助関連用具」を利用し続けることにより、転倒の防止に役立つなど安全に自分で歩行ができ、Barthel Index の維持・改善につながると推測される。

継続利用者については、貸与開始 6 カ月後から 10 カ月後まで継続的に「歩行補助関連用具」を利用し、18 カ月後も利用している利用者は少ないが、同様の傾向が見られる。しかし、貸与開始から 18 カ月後まで満点の「100 点」を維持した利用者は 55.2%であった。

**図表 3-26 「歩行補助関連用具」継続的に利用かつ「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」共に利用なしの利用者における
Barthel Index 維持・改善した利用者の割合の推移**
※初回調査時点と比較した維持・改善



図表 3-27 「歩行補助関連運用具」継続的に利用かつ「車いす関連運用具・特殊寝台関連運用具」共に利用なしの利用者における Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移 (Barthel Index 区分別)
 ※初回調査時点と比較した維持・改善



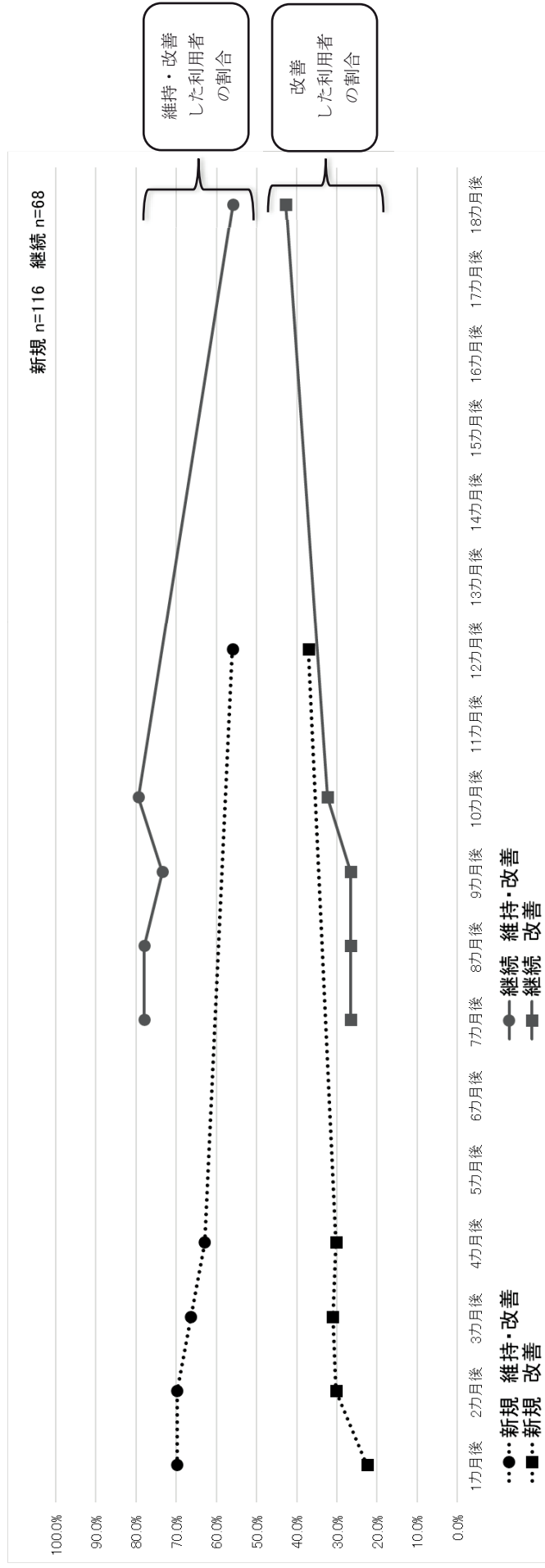
図表の BI は、Barthel Index

3) 「歩行補助関連用具」 継続的利用かつ「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」共に利用なしの利用者の介護者の負担感の変化

「歩行補助関連用具」を継続して利用し、「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」を共に利用しなかつた利用者について、介護者の負担感の変化を分析した。次の図表は、初回調査の介護者の負担と各回の調査の介護者の負担感を比較し、維持・改善した利用者の割合とその他の改善した利用者の割合の推移を示した。

介護者の負担感には、Barthel Index の維持・改善傾向と同様の傾向が見られ、介護者の負担感が維持・改善した割合は徐々に低下するものの、新規利用者では貸与 2 カ月後までは 70%程度を保持し、その後も 60%程度を維持していた。継続利用者では介護者の負担感が維持・改善した割合は、貸与開始 10 カ月後まで 80%程度を維持し、18 カ月後には 55.9%であった。そのうち介護者の負担感が改善した割合を見ると、新規利用者、継続利用者共に時間が経過するにつれ上昇しており、新規利用者は貸与開始 12 カ月後には 40%程度に、継続利用者は貸与開始から 18 カ月後には 40%を超えていた。**「歩行補助関連用具」により介護者の負担が一定程度維持・改善すると考えられる。**

図表 3-28 歩行補助具継続利用者における介護者の負担感が維持・改善した利用者の割合の推移
※初回調査時点と比較した維持・改善



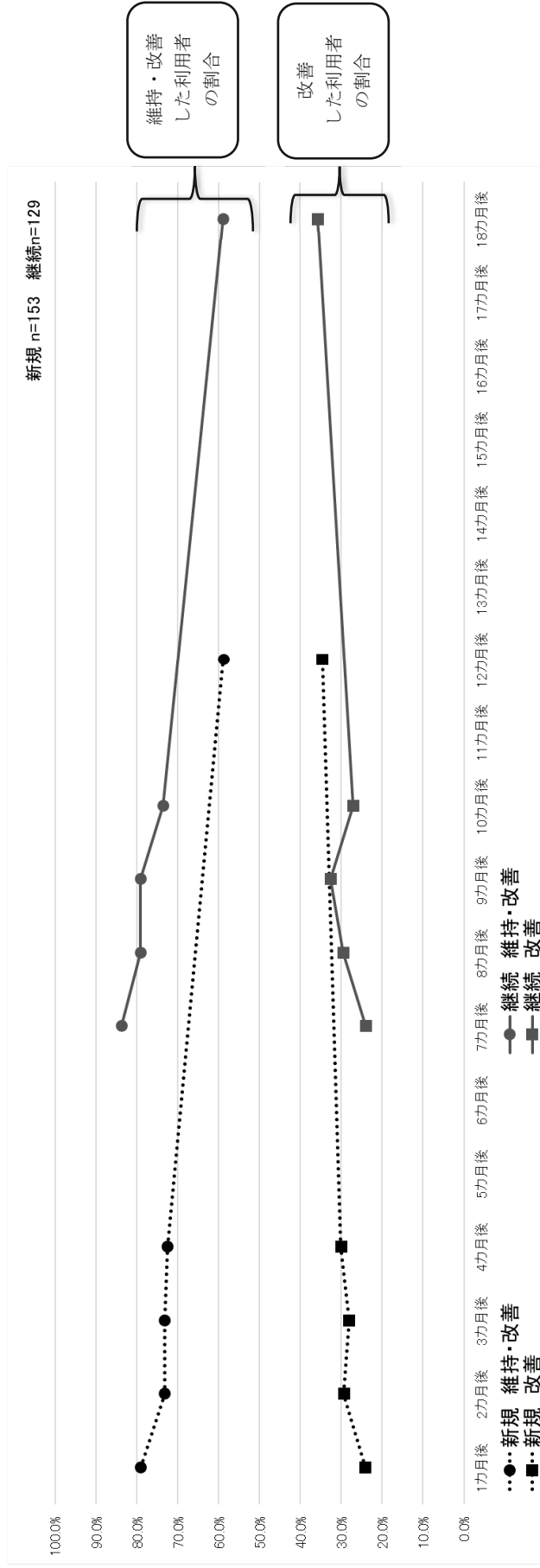
4) 「歩行補助関連用具」を継続的に利用していないかつ「車いす関連・特殊寝台関連の用具」利用ありの利用者の Barthel Index の変化

「歩行補助関連用具」を継続的に利用しておらず、「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」を利用した利用者について、初回調査の Barthel Index と各回の調査の Barthel Index を比較し、維持・改善した利用者の割合とその他の改善した利用者の割合の推移を示した。

新規利用者が Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は、貸与開始から 4 カ月後まで 70%以上を保ち、12 カ月後には 58.8%となった。継続利用者で Barthel Index が貸与開始 6 カ月の状態を維持・改善した利用者の割合は、貸与開始 10 カ月後まで 70%以上を保ち、18 カ月後には 58.9%となった。

「歩行補助関連用具」を継続的に利用しておらず、「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」を利用した利用者は、要介護度が高い利用者が多いため、「歩行補助関連用具」を継続して利用し、「車いす関連・特殊寝台関連の用具」を利用しなかった利用者よりも Barthel Index の維持・改善割合が低いと推測される。

図表 3-29 「歩行補助関連用具」を継続的に利用していないかつ「車いす関連・特殊寝台関連の用具」利用ありの利用者における Barthel Index が維持・改善した利用者の割合の推移
 ※初回調査時点と比較した維持・改善

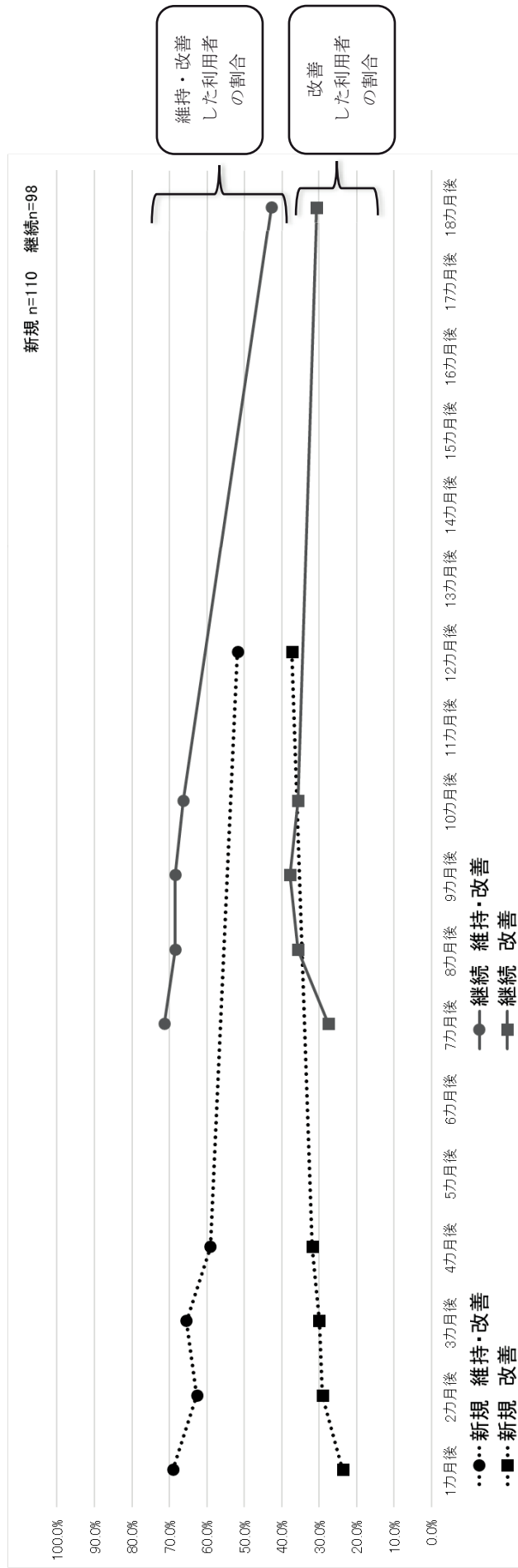


5) 「歩行補助関連用具」 継続的に利用していないか？ 「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」 利用あり 介護者の負担感の変化

「歩行補助関連用具」を継続的には利用しておらず、「車いす関連用具・特殊寝台関連用具」を利用した利用者の割合について、初回調査と各回の調査の介護者の負担感を比較し、維持・改善した利用者の割合とその他の改善した利用者の割合の推移を示した。

介護者の負担感は、Barthel Index の維持・改善傾向と同様の傾向が見られ、介護者の負担感は徐々に大きくなるもの、新規利用者のうち介護者の負担感が維持・改善した利用者の割合は貸与 1 カ月後は 69.1% で、その後 60% 以上を保ち、12 カ月後は 51.8% であった。継続利用者の介護者の負担感については、貸与開始 6 カ月後の状態を維持・改善した利用者の割合は貸与開始 10 カ月後まで 70% 程度を保ち、18 カ月後には 42.9% となった。**対象者の自立度が低いため、「歩行補助関連用具」を継続的に利用した利用者よりも介護者の負担感は大いなもの、「車いす関連・特殊寝台関連の用具」を利用することにより、一定程度は介護者の負担が緩和されていると考えられる。**

図表 3-30 「歩行補助関連用具」を継続的に利用していないか？ 「車いす関連・特殊寝台関連の用具」利用ありの利用者における介護者の負担感の推移
 維持・改善した利用者の割合の推移
 ※初回調査時点と比較した維持・改善



(7) リハビリテーション（通所・訪問）利用について

1) リハビリテーションの利用状況

通所リハビリテーションと訪問リハビリテーションのいずれかを継続利用している利用者数は以下のとおりであった。

- ・貸与開始から4カ月間継続利用：282人のうち、歩行補助用具継続利用者202人、うちよく利用している利用者95人
- ・貸与開始から4カ月間利用し12カ月後も利用：95人のうち、歩行補助用具継続利用者59人、うちよく利用している利用者22人
- ・貸与開始6カ月後から4カ月間継続利用：32人のうち、歩行補助用具継続利用者212人、うちよく利用している利用者162人
- ・貸与開始6カ月後から4カ月間利用し18カ月後も利用：102人のうち、歩行補助用具継続利用者639人、うちよく利用している利用者48人

図表 3-31 リハビリテーション（通所・訪問）利用状況

	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後) から4カ月間の利用状況				
通所リハ・訪問リハ いずれかを継続利用	1,325	1,081	100.0%	100.0%
通所リハのみ継続利用 ※訪問リハ1度も利用なし	282	324	21.3%	30.0%
通所リハのみ継続利用 ※訪問リハ1度以上併用あり	22	19	1.7%	1.8%
通所リハのみ継続利用 ※通所リハ1度も利用なし	175	201	13.2%	18.6%
訪問リハのみ継続利用 ※通所リハ1度以上併用あり	3	1	0.2%	0.1%
訪問リハのみ継続利用 ※通所リハ1度以上併用あり	77	99	5.8%	9.2%
その他	2	1	0.2%	0.1%
通所リハ・訪問リハ 共に1度も利用なし	3	3	0.2%	0.3%
通所リハ・訪問リハ 共に1度も利用なし	972	729	73.4%	67.4%
その他	71	28	5.4%	2.6%
貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後) から4カ月間と12カ月後の利用状況				
通所リハ・訪問リハ いずれかを継続利用	663	573	100.0%	100.0%
通所リハのみ継続利用 ※訪問リハ1度も利用なし	95	102	14.3%	17.8%
通所リハのみ継続利用 ※訪問リハ1度以上併用あり	4	3	0.6%	0.5%
通所リハのみ継続利用 ※通所リハ1度も利用なし	58	61	8.7%	10.6%
訪問リハのみ継続利用 ※通所リハ1度以上併用あり	6	4	0.9%	0.7%
訪問リハのみ継続利用 ※通所リハ1度以上併用あり	17	29	2.6%	5.1%
その他	4	0	0.6%	0.0%
通所リハ・訪問リハ 共に1度も利用なし	6	5	0.9%	0.9%
通所リハ・訪問リハ 共に1度も利用なし	419	350	63.2%	61.1%
その他	149	121	22.5%	21.1%

初回調査時点でリハビリテーションを利用しており、その後4カ月間、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションのいずれかを継続して利用した新規利用者は282人、継続利用者は324人であった。(福祉用具を4カ月間継続して利用したうちの、新規利用者21.3%、継続利用者30.0%) また、その後追跡調査時点(新規利用者は12カ月後、継続利用者は18カ月後)もリハビリテーションもリハビリテーションを利用している新規利用者は95人、継続利用者は102人であった。(集計対象のうちの、新規利用者は14.3%、継続利用者は17.8%であった。) リハビリテーションは期間を決めて行われ、長い期間継続して受けることがないため、貸与開始から12カ月後や18カ月後まで、利用し続けることは少ないと推測される。

また、リハビリテーションと並行して、歩行器、歩行補助用具(手すり、歩行器、歩行補助つえいずれか)を継続して利用した新規利用者は202人、継続利用者は212人で、リハビリテーション継続利用者の71.6%、65.4%であった。リハビリテーションを利用しながら、並行して歩行補助関連用具を使用している割合が高かった。

図表 3-32 貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後)から4カ月間リハを継続利用

貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後)から4カ月間リハを継続利用	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	282	324	100.0%	100.0%
要支援1-2	60	73	21.3%	22.5%
要介護1-3	166	125	58.9%	38.6%
要介護4-5	39	121	13.8%	37.3%
申請中	16	0	5.7%	0.0%
欠損	1	5	0.4%	1.5%
歩行補助用具継続利用 71.6% 65.4%				
貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後)から4カ月間リハを継続利用	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	202	212	100.0%	100.0%
要支援1-2	59	62	29.2%	29.2%
要介護1-3	112	95	55.4%	44.8%
要介護4-5	20	52	9.9%	24.5%
申請中	10	0	5.0%	0.0%
欠損	1	3	0.5%	1.4%

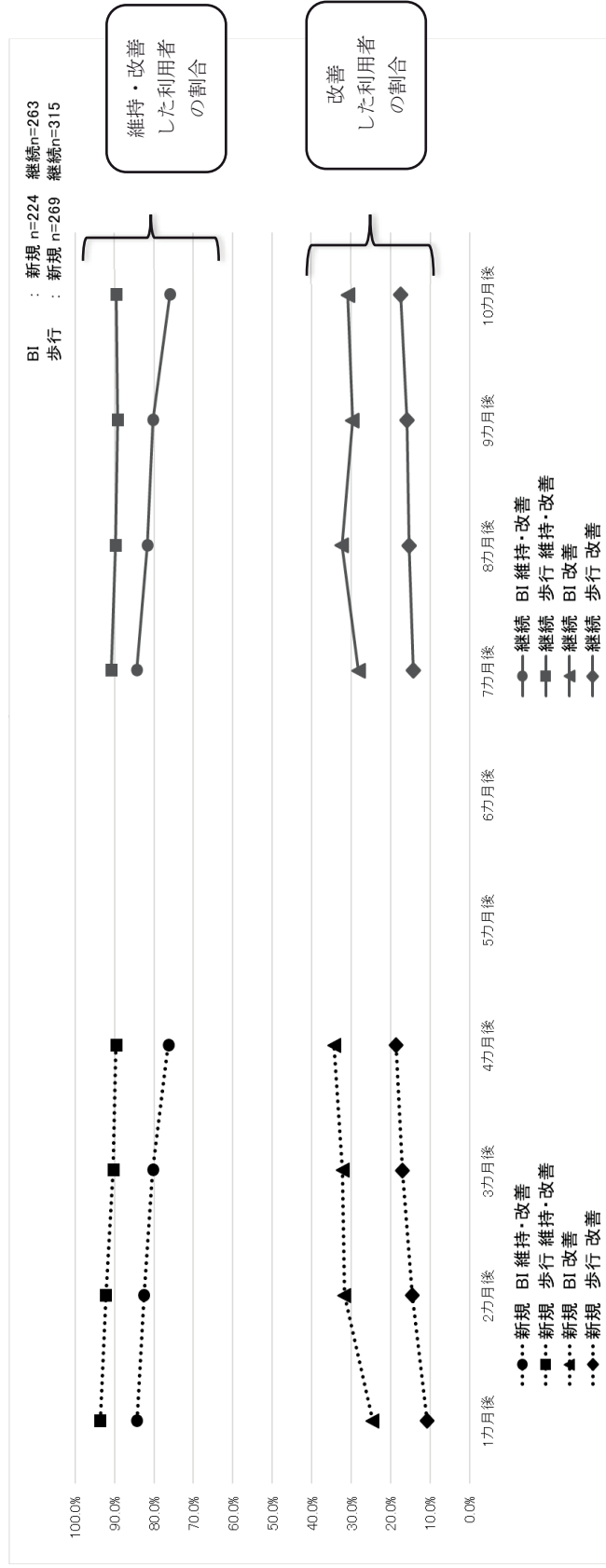
貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後)から4カ月間と12カ月後のリハを継続利用	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	95	102	100.0%	100.0%
要支援1-2	15	24	15.8%	23.5%
要介護1-3	61	45	64.2%	44.1%
要介護4-5	14	30	14.7%	29.4%
申請中	4	0	4.2%	0.0%
欠損	1	3	1.1%	2.9%
歩行補助用具継続利用 62.1% 61.8%				
貸与開始(継続利用者は貸与開始から6カ月後)から4カ月間と12カ月後のリハを継続利用	人数		%	
	新規	継続	新規	継続
総計	59	63	100.0%	100.0%
要支援1-2	12	20	20.3%	31.7%
要介護1-3	39	33	66.1%	52.4%
要介護4-5	4	9	6.8%	14.3%
申請中	0	0	0.0%	0.0%
欠損	4	1	6.8%	1.6%

2) リハ（通所・訪問） 4 カ月間継続利用者における Barthel Index(合計)と歩行の変化

通所リハ、訪問リハいずれかを 4 カ月間（新規利用者は貸与開始から、継続利用者は貸与開始から 4 カ月後から 4 カ月間）継続して利用した利用者について、初回と各回の調査の Barthel Index(合計)と歩行の得点を比較し、維持・改善した利用者の割合とそのうち改善した利用者の割合の推移を示した。

新規利用者と Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は、貸与開始から 3 カ月後までは 80%以上を保ち、貸与開始 4 カ月後には 76.3%となった。歩行の得点が維持・改善した利用者の割合は、貸与開始から 4 カ月後までは 90%以上を保った。改善した利用者の割合は、Barthel Index が貸与開始 1 カ月後は 24.6%で、貸与開始から 2 カ月後は 31.7%となり、4 カ月後まで 30%程度を保った。歩行の得点が改善した利用者の割合は、貸与開始 1 カ月後は 10.6%で、徐々に上昇し貸与開始 4 カ月後には 18.6%となった。継続利用者についても、新規利用者と同様の傾向だった。

図表 3-33 Barthel Index(合計)と「歩行」の得点が維持・改善した利用者の割合の推移
※初回調査時点と比較した維持・改善



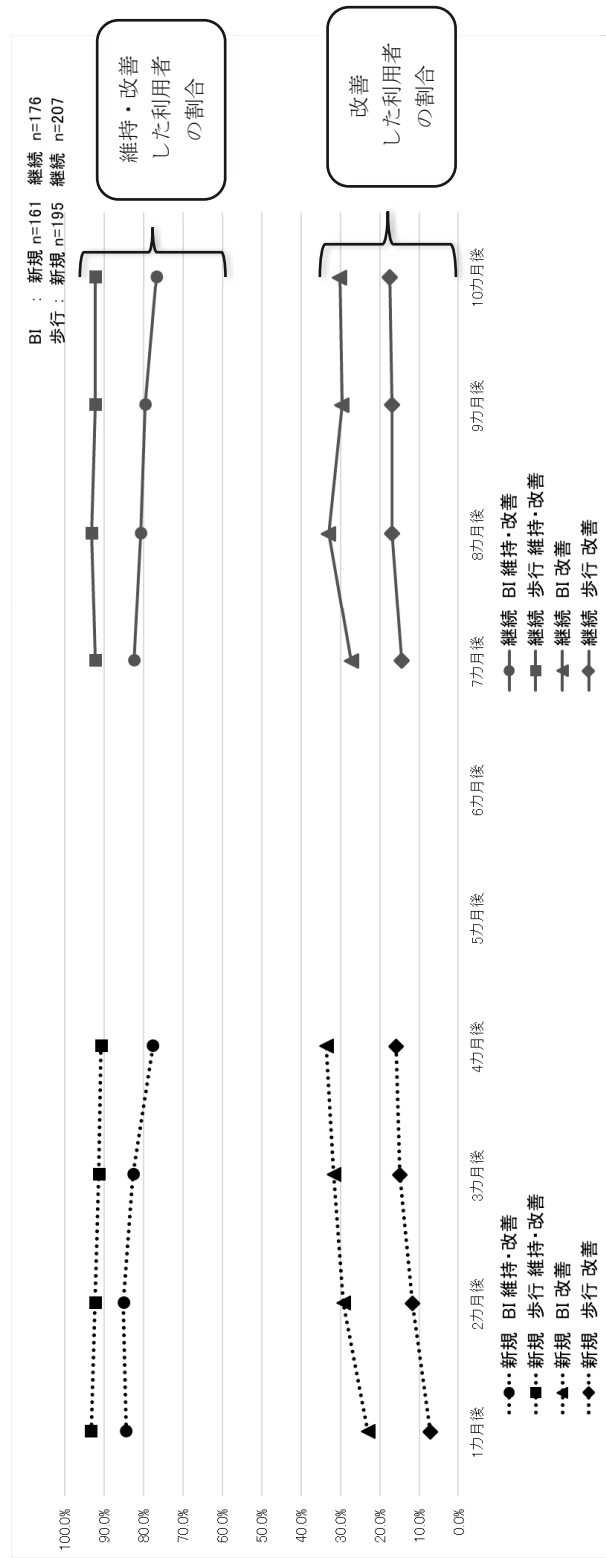
図表の BI は、Barthel Index

3) リハ（通所・訪問） 4 カ月間継続利用 かつ 歩行補助用具 かつ 歩行補助用具（手すり・歩行器・歩行補助つえ） 継続利用者における Barthel Index(合計)と歩行の得点の変化

通所リハ、訪問リハいずれかを 4 カ月間（新規利用者は貸与開始から、継続利用者は貸与開始 6 カ月後から 4 カ月）継続して利用し、かつ歩行補助関連用具も継続して利用した利用者について、初回と各回の調査の Barthel Index(合計)と歩行の得点を比較し、維持・改善した利用者の割合とその他の改善した利用者の割合の推移を示した。

通所リハ、訪問リハいずれかを 4 カ月間利用した利用者は、歩行補助関連用具を併用して利用している割合が高かった（新規利用者 71.6%、継続利用者 65.4%）ため、リハ（通所・訪問） 4 カ月間継続して利用した利用者との傾向は変わらなかった。

図表 3-34 Barthel Index と ADL（歩行）維持・改善 割合の推移(歩行補助用具継続利用者)
※初回調査時点と比較した維持・改善



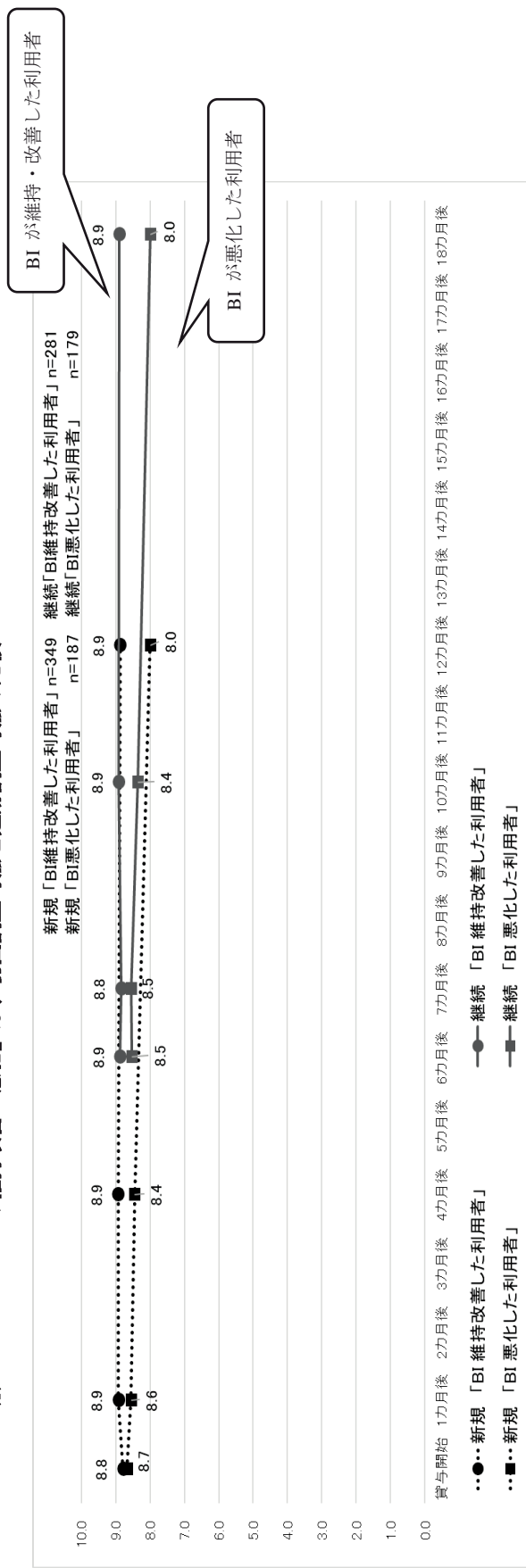
(8) 「意欲の指標」について

1) 「意欲の指標」の平均値の推移

「意欲の指標」について、初回調査から追跡調査時点の間に Barthel Index が維持・改善した利用者と悪化した利用者の 2 群に分け、「意欲の指標」の平均値の推移を示した。

「意欲の指標」の平均値の推移は、Barthel Index が維持・改善した利用者は、新規利用者は、新規利用者は、時間が経過しても 10.0 点満点中約 9.0 点と高い点数を維持していた。Barthel Index が悪化した利用者は、新規利用者は、新規利用者は、時間が経過するにつれ徐々に低下はするが、約 8.0 点までで大幅な低下はしなかった。

図表 3-35 「Barthel Index の維持改善・悪化」別 「意欲の指標」平均値の推移
 ※「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較



図表の BI は、Barthel Index

2) 「意欲の指標」が維持・改善した利用者の割合の推移 (Barthel Index の維持改善・悪化別)

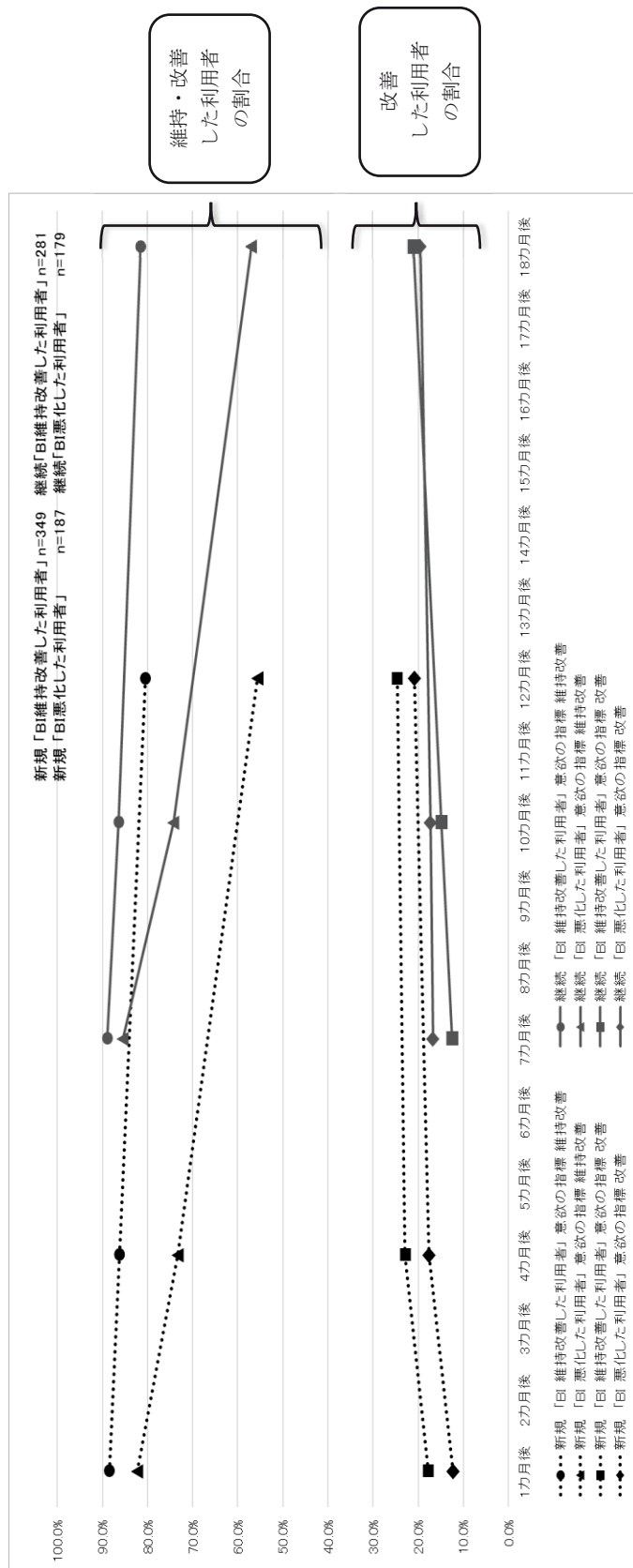
「意欲の指標」について、追跡調査の Barthel Index が初回調査より維持・改善した利用者と悪化した利用者の 2 群に分け、初回と各回調査の「意欲の指標」を比較して維持・改善した利用者の割合と、そのうち改善した利用者の割合の推移を示した。

Barthel Index が維持・改善した利用者は、新規利用者は、新規利用者、継続利用者共に 80%～90%程度が、「意欲の指標」も維持・改善した。Barthel Index が悪化した利用者については、新規利用者、継続利用者共に時間が経過するにつれ「意欲の指標」も低下し、約 55%となった。しかし、平均値の推移は 10.0 点満点中 8.0 点を保っているため、初回調査（新規利用者は福祉用具貸与開始時点、継続利用者は福祉用具貸与開始から 6 カ月後時点）からは意欲は下がるものの大幅に低下するわけではなく、Barthel Index が悪化した利用者には、福祉用具を利用することで、意欲の大幅な低下防止に一部役立っていると推測される。

図表 3-36 「Barthel Index の維持改善・悪化」別 「意欲の指標」が維持・改善した利用者の割合

※ 「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較

※ 「意欲の指標」の維持改善は、初回調査時点と各回調査時点の比較



図表の BI は、Barthel Index

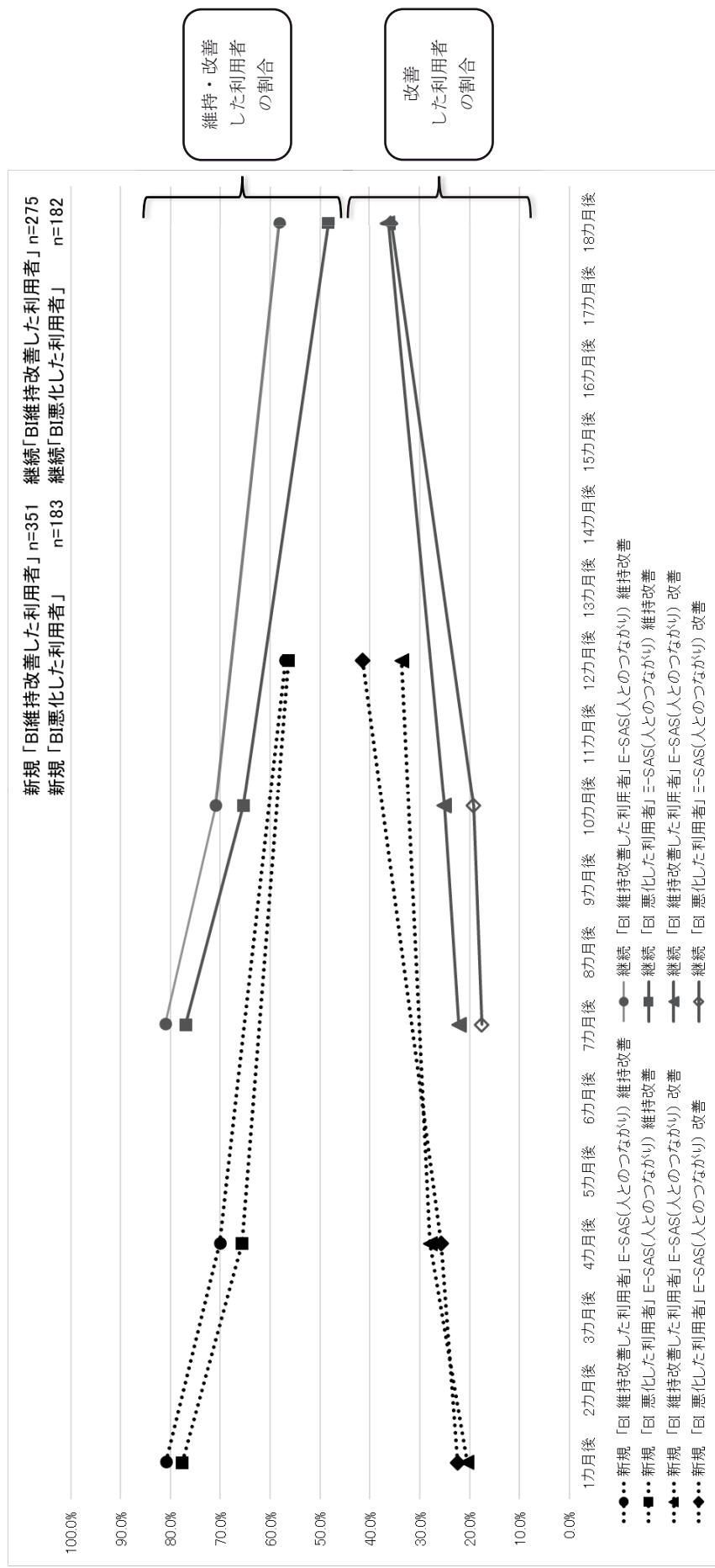
2) 「E-SAS（人とのつながり）」が維持・改善した利用者の割合の推移（Barthel Index の維持改善・悪化別）

「E-SAS（人とのつながり）」について、追跡調査の Barthel Index が初回調査より維持・改善した利用者と悪化した利用者の2群に分け、初回と各回調査の「E-SAS(人とのつながり)」を比較して維持・改善した利用者の割合と、そのうち改善した利用の割合の推移を示した。

Barthel Index が維持・改善した新規利用者も、Barthel Index が悪化した新規利用者も同程度で、時間が経過するにつれ、「E-SAS（人とのつながり）」は低下した。しかし「E-SAS(人とのつながり)」が改善した利用者の割合は、新規利用者については、Barthel Index が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も時間が経過するにつれ上昇しており、特に貸与開始12カ月後には、Barthel Index が維持・改善した新規利用者より、Barthel Index が悪化した利用者の方が、「E-SAS（人とのつながり）」が改善した利用者の割合が高かった。（継続利用者については、貸与開始18カ月後は、Barthel Index が維持・改善した継続利用者より Barthel Index が悪化した継続利用者の方が、「E-SAS(人とのつながり)」が維持・改善した利用者の割合は低かった。「E-SAS(人とのつながり)」が改善した利用者の割合は、Barthel Index が維持・改善した利用者と Barthel Index が悪化した利用者で、貸与開始18カ月後には差がなかった。）

福祉用具の利用が、Barthel Index が悪化しても、「人とのつながり」を維持・改善する効果があると推測される。

図表 3-38 「Barthel Index の維持改善・悪化」別「E-SAS（人とのつながり）」が維持・改善した利用者の割合
 ※「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較
 ※「E-SAS（人とのつながり）」の維持改善は、初回調査時点と各回調査時点の比較



図表の BI は、 Barthel Index

10) 「介護者の負担感」について

1) 「介護者の負担感」の平均値の推移

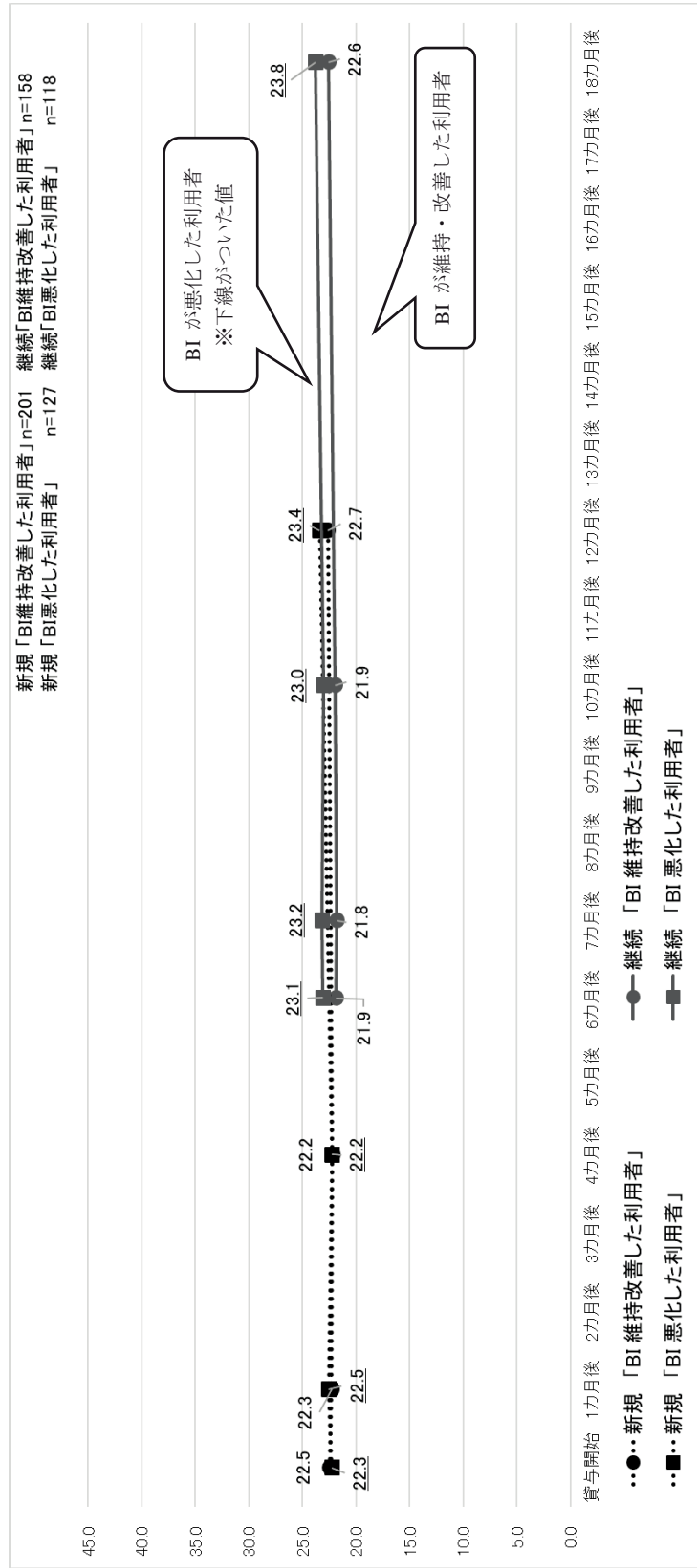
「介護者の負担感」について、追跡調査の Barthel Index が初回調査より維持・改善した利用者と悪化した利用者の2群に分け、「介護者の負担感」の平均値の推移を示した。（「介護者の負担感」は点数が高いほど、負担感が高くなる。）

Barthel Index が維持・改善した新規利用者も、共に48点満点中約22～23点を推移した。継続利用者についても同様であった。

図表 3-39 「Barthel Index の維持改善・悪化」別 介護者の負担感 平均値の推移

※「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較

※得点が高くなるほど介護者の負担感が増大



図表の BI は、Barthel Index

2) 「介護者の負担感」が維持・改善した利用者の割合の推移 (Barthel Index の維持改善・悪化別)

「介護者の負担感」について、追跡調査の Barthel Index が初回調査より維持・改善した利用者とは悪化した利用者の 2 群に分け、初回と各回調査の「E-SAS(人とのつながり)」を比較して維持・改善した利用者の割合と、そのうち改善した利用者の割合の推移を示した。

新規利用者については、Barthel Index が維持・改善した利用者も、共に時間が経過するにつれ、「介護者の負担感」が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も、Barthel Index が維持・改善した利用者の割合は低下した。「介護者の負担感」が改善した利用者は、Barthel Index が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も同程度で、時間が経過するにつれ高くなった。また、Barthel Index が維持・改善した利用者の方が、Barthel Index が悪化した利用者より、「介護者の負担感」が改善した利用者の割合が貸与開始 4 カ月後には高くなったが、貸与開始 12 カ月後には、ほぼ同程度となった。

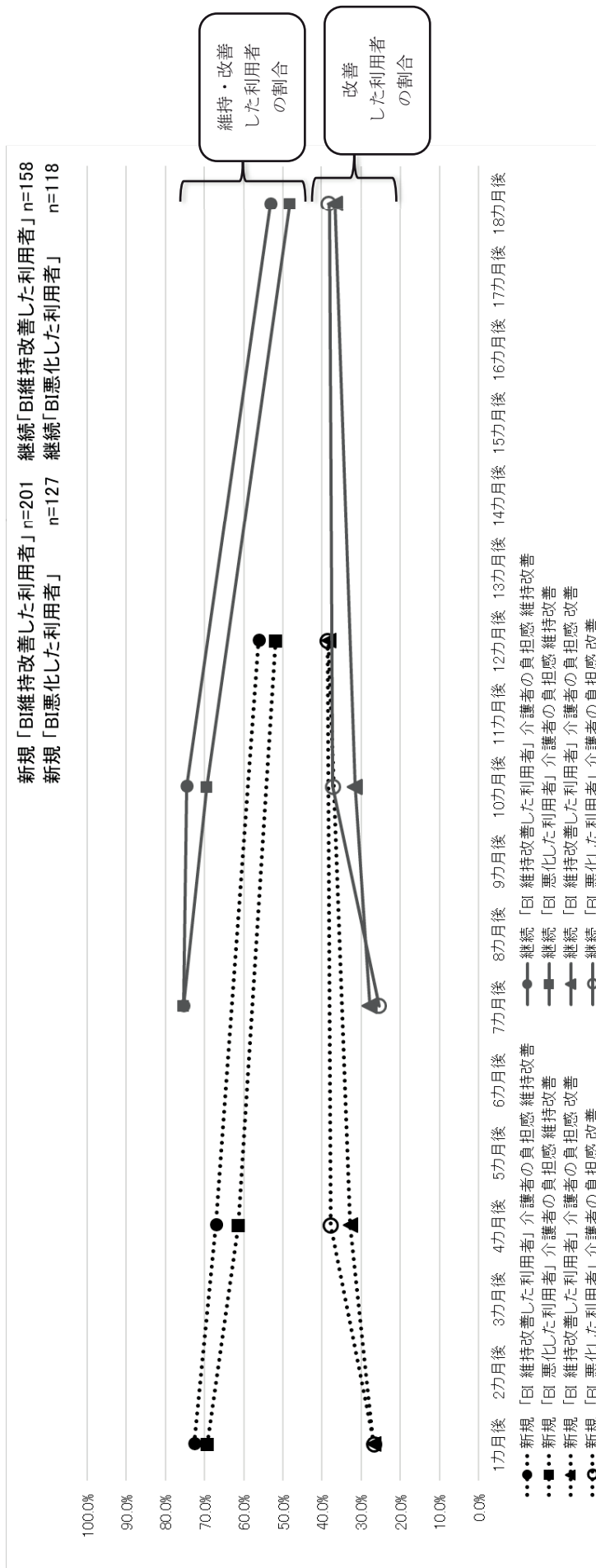
継続利用者については、Barthel Index が維持・改善した利用者も、Barthel Index が悪化した利用者も共に、貸与開始 7 カ月後には「介護者の負担感」の維持・改善した利用者の割合は同程度であったが、貸与開始 10 カ月後、18 カ月後には、Barthel Index が維持・改善した利用者の方が、高くなった。「介護者の負担感」が改善した利用者の割合は、貸与開始 10 カ月後には、Barthel Index が悪化した利用者も、Barthel Index が維持・改善した利用者より高くなったが、18 カ月後には同程度となった。

福祉用具を利用し続けることで、使用方法にも慣れ、12 カ月後に Barthel Index が悪化した場合でも、大幅に介護者の負担感が悪化することがなく、また一部は改善する効果もあると推測される。

図表 3-40 「Barthel Index の維持改善・悪化」別「介護者の負担感」が維持・改善した利用者の割合

※「Barthel Index の維持改善・悪化」は、初回調査時点と追跡調査時点の比較

※「介護者の負担感」の維持改善は、初回調査時点と各回調査時点の比較



図表の BI は、Barthel Index

3.3.2 ADL が改善した利用者に関する分析

平成 29 年度に実施した定点観測調査の初回調査時点と、追跡調査時点での Barthel Index の得点を比較すると、「改善」「維持」「悪化」の 3 群に分類することができる。

このうち改善すなわち Barthel Index の得点が向上した利用者に着目し、その特徴について分析するため、新規利用者、継続利用者それぞれについて初回調査時点の Barthel Index に基づいて 2 群に分け、以下の 4 つに区分して、集計を行った。

- ① 新規利用者 初回 Barthel Index 85 点以上 (以降「①新規 85 点以上」と称する)
- ② 継続利用者 初回 Barthel Index 85 点以上 (以降「②継続 85 点以上」と称する)
- ③ 新規利用者 初回 Barthel Index 80 点以下 (以降「③新規 80 点以下」と称する)
- ④ 継続利用者 初回 Barthel Index 80 点以下 (以降「④継続 80 点以下」と称する)

また、比較対象とするため、初回調査と追跡調査時点で、Barthel Index の得点の変化がなかった「維持」群、得点が下がった「悪化群」についても集計を行った。

(1) 基本情報

1) 居住形態

居住形態については、改善群は「家族と同居」が 78.7%で、維持群 62.4%、悪化群 73.9% よりも多かった。改善群のうち、新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index の得点が 80 点以下の利用者の場合、家族と同居している割合が高かった。

図表 3-41 居住形態

調査対象	調査数	独居	家族と同居	無回答
総数	946	249	679	18
	100%	26.3%	71.8%	1.9%
改善	300	59	236	5
	100%	19.7%	78.7%	1.7%
①新規85点以上	61	19	41	1
	100%	31.1%	67.2%	1.6%
②継続85点以上	56	16	39	1
	100%	28.6%	69.6%	1.8%
③新規80点以下	101	15	84	2
	100%	14.9%	83.2%	2.0%
④継続80点以下	82	9	72	1
	100%	11.0%	87.8%	1.2%
維持	298	109	186	3
	100%	36.6%	62.4%	1.0%
悪化	348	81	257	10
	100%	23.3%	73.9%	2.9%

2) 用具導入のきっかけ

用具導入のきっかけについては、「医療施設等からの退所・退院」が改善群は 43.3%であり、維持群 31.2%、悪化群 35.3%よりも高かった。改善群のうち、新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index の得点が 80 点以下の利用者の場合、医療機関等からの退院・退所時から福祉用具を利用し始める割合が高かった。医療機関等からの退院・退所後、ADL が下がっている状態から、福祉用具を有効に利用することで、ADL を向上させることができると考えられる。

図表 3-42 用具導入のきっかけ

調査対象	調査数	退か医療施設等 の退院	新介護申請 保険の	その他	無回答
総数	946	346	410	138	52
	100%	36.6%	43.3%	14.6%	5.5%
改善	300	130	119	32	19
	100%	43.3%	39.7%	10.7%	6.3%
①新規85点以上	61	16	34	6	5
	100%	26.2%	55.7%	9.8%	8.2%
②継続85点以上	56	18	25	11	2
	100%	32.1%	44.6%	19.6%	3.6%
③新規80点以下	101	57	29	9	6
	100%	56.4%	28.7%	8.9%	5.9%
④継続80点以下	82	39	31	6	6
	100%	47.6%	37.8%	7.3%	7.3%
維持	298	93	143	49	13
	100%	31.2%	48.0%	16.4%	4.4%
悪化	348	123	148	57	20
	100%	35.3%	42.5%	16.4%	5.7%

3) 住宅改修の有無と内容

住宅改修の有無について、改善群は「改修あり」が 29.0%、維持群は 29.2%、悪化群は 33.9%であり、大きな差は見られなかった。

住宅改修の内容について、「段差の解消」が改善群は 29.9%、維持群が 19.2%、悪化群は 15.0%であった。段差の解消により、移動関連の福祉用具を利用して安全に屋内の移動ができ、ADL が改善していることが考えられる。

図表 3-43 住宅改修の有無

調査対象	調査数	改修あり	改修予定	改修なし	無回答
総数	946	292	3	615	36
	100%	30.9%	0.3%	65.0%	3.8%
改善	300	87	0	203	10
	100%	29.0%	0.0%	67.7%	3.3%
①新規85点以上	61	17	0	40	4
	100%	27.9%	0.0%	65.6%	6.6%
②継続85点以上	56	16	0	38	2
	100%	28.6%	0.0%	67.9%	3.6%
③新規80点以下	101	28	0	73	0
	100%	27.7%	0.0%	72.3%	0.0%
④継続80点以下	82	26	0	52	4
	100%	31.7%	0.0%	63.4%	4.9%
維持	298	87	1	201	9
	100%	29.2%	0.3%	67.4%	3.0%
悪化	348	118	2	211	17
	100%	33.9%	0.6%	60.6%	4.9%

図表 3-44 住宅改修の内容（複数回答）

調査対象	調査数	手すりの取り付け	段差の解消	通路・滑り面の材料の変更	円滑化の防止及び移動の円滑化	引き戸等への取り替え	様式便器等への取り替え	その他	無回答
総数	295	281	61	19	16	2	2	2	
	100%	95.3%	20.7%	6.4%	5.4%	0.7%	0.7%	0.7%	
改善	87	83	26	8	5	0	1	0	
	100%	95.4%	29.9%	9.2%	5.7%	0.0%	1.1%	0.0%	
①新規85点以上	17	17	5	1	1	0	0	1	
	100%	100.0%	29.4%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	
②継続85点以上	16	16	4	1	0	0	0	1	
	100%	100.0%	25.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	
③新規80点以下	28	25	10	3	2	0	1	0	
	100%	89.3%	35.7%	10.7%	7.1%	0.0%	3.6%	0.0%	
④継続80点以下	26	25	7	3	2	0	0	0	
	100%	96.2%	26.9%	11.5%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
維持	88	83	17	4	5	1	1	1	
	100%	94.3%	19.3%	4.5%	5.7%	1.1%	1.1%	1.1%	
悪化	120	115	18	7	6	1	0	1	
	100%	95.8%	15.0%	5.8%	5.0%	0.8%	0.0%	0.8%	

注) 住宅改修の有無で「改修あり」「改修予定」と回答した人が調査対象

4) 疾患

疾患については、改善群のうち初回の Barthel Index の得点が 85 点以上の利用者では、「骨関節疾患」の割合が悪化群よりも高く、80 点以下の利用者では「脳血管疾患」の割合が維持群、悪化群よりも高かった。骨関節疾患を有する Barthel Index85 点以上の利用者や、脳血管疾患を有する Barthel Index80 点以下の利用者は、福祉用具を利用して ADL が改善する割合が高かった。

図表 3-45 疾患（複数回答）

調査対象	調査数	骨関節疾患	脳血管疾患	心疾患	パーキンソン病	がん	その他進行性疾患	呼吸器系疾患	その他	無回答（疾病なし）
総数	946	196	141	72	45	34	22	30	205	78
	100%	20.7%	14.9%	7.6%	4.8%	3.6%	2.3%	3.2%	21.7%	8.2%
改善	300	61	51	20	16	9	6	7	73	78
	100%	20.3%	17.0%	6.7%	5.3%	3.0%	2.0%	2.3%	24.3%	26.0%
①新規85点以上	61	16	5	4	2	0	0	0	15	24
	100%	26.2%	8.2%	6.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	24.6%	39.3%
②継続85点以上	56	14	7	4	2	0	2	1	18	15
	100%	25.0%	12.5%	7.1%	3.6%	0.0%	3.6%	1.8%	32.1%	26.8%
③新規80点以下	101	15	23	3	6	4	2	4	23	25
	100%	14.9%	22.8%	3.0%	5.9%	4.0%	2.0%	4.0%	22.8%	24.8%
④継続80点以下	82	16	16	9	6	5	2	2	17	14
	100%	19.5%	19.5%	11.0%	7.3%	6.1%	2.4%	2.4%	20.7%	17.1%
維持	298	74	40	22	9	9	7	7	71	0
	100%	24.8%	13.4%	7.4%	3.0%	3.0%	2.3%	2.3%	23.8%	0.0%
悪化	348	61	50	30	20	16	9	16	61	0
	100%	17.5%	14.4%	8.6%	5.7%	4.6%	2.6%	4.6%	17.5%	0.0%

(2) 福祉用具の利用状況

1) 特殊寝台・特殊寝台付属品

特殊寝台・特殊寝台付属品について、改善群では新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 80 点以下であった利用者は、「貸与あり」の割合が、維持群、悪化群より高かった。

図表 3-46 特殊寝台・特殊寝台付属品の貸与の有無

調査対象	調査数	貸与無し	貸与あり	無回答
総数	946	537	365	44
	100%	56.8%	38.6%	4.7%
改善	300	157	128	15
	100%	52.3%	42.7%	5.0%
①新規85点以上	61	48	6	7
	100%	78.7%	9.8%	11.5%
②継続85点以上	56	42	10	4
	100%	75.0%	17.9%	7.1%
③新規80点以下	101	38	62	1
	100%	37.6%	61.4%	1.0%
④継続80点以下	82	29	50	3
	100%	35.4%	61.0%	3.7%
維持	298	201	76	21
	100%	67.4%	25.5%	7.0%
悪化	348	179	161	8
	100%	51.4%	46.3%	2.3%

2) 手すり

手すりについては、改善群のうち新規利用者で初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、「貸与あり」の割合が、維持群、悪化群より高かった。

図表 3-47 手すりの貸与の有無

調査対象	調査数	貸与無し	貸与あり	無回答
総数	946	373	533	40
	100%	39.4%	56.3%	4.2%
改善	300	116	172	12
	100%	38.7%	57.3%	4.0%
①新規85点以上	61	13	45	3
	100%	21.3%	73.8%	4.9%
②継続85点以上	56	21	33	2
	100%	37.5%	58.9%	3.6%
③新規80点以下	101	50	47	4
	100%	49.5%	46.5%	4.0%
④継続80点以下	82	32	47	3
	100%	39.0%	57.3%	3.7%
維持	298	118	167	13
	100%	39.6%	56.0%	4.4%
悪化	348	139	194	15
	100%	39.9%	55.7%	4.3%

3) 車いす・車いす付属品

車いす・車いす付属品については、改善群では新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、「貸与あり」の割合が、維持群、悪化群より高かった。

図表 3-48 車いす・車いす付属品の貸与の有無

調査対象	調査数	貸与無し	貸与あり	無回答
総数	946	629	258	59
	100%	66.5%	27.3%	6.2%
改善	300	193	87	20
	100%	64.3%	29.0%	6.7%
①新規85点以上	61	51	3	7
	100%	83.6%	4.9%	11.5%
②継続85点以上	56	46	6	4
	100%	82.1%	10.7%	7.1%
③新規80点以下	101	50	46	5
	100%	49.5%	45.5%	5.0%
④継続80点以下	82	46	32	4
	100%	56.1%	39.0%	4.9%
維持	298	220	58	20
	100%	73.8%	19.5%	6.7%
悪化	348	216	113	19
	100%	62.1%	32.5%	5.5%

4) 歩行器

歩行器について、改善群のうち継続利用者で初回の Barthel Index が 80 点以下であった利用者は、「貸与あり」の割合が、維持群、悪化群より高かった。

図表 3-49 歩行器の貸与の有無

調査対象	調査数	貸与無し	貸与あり	無回答
総数	946	558	337	51
	100%	59.0%	35.6%	5.4%
改善	300	176	108	16
	100%	58.7%	36.0%	5.3%
①新規85点以上	61	33	25	3
	100%	54.1%	41.0%	4.9%
②継続85点以上	56	27	26	3
	100%	48.2%	46.4%	5.4%
③新規80点以下	101	59	36	6
	100%	58.4%	35.6%	5.9%
④継続80点以下	82	57	21	4
	100%	69.5%	25.6%	4.9%
維持	298	178	105	15
	100%	59.7%	35.2%	5.0%
悪化	348	204	124	20
	100%	58.6%	35.6%	5.7%

(3) 他サービスの利用状況

1) 通所介護

通所介護については、全体では、通所介護を利用している利用者のほうが、利用していない利用者よりも多いが、改善群のうち新規利用者（初回の Barthel Index によらない）および、維持群では通所介護を利用していない利用者の割合が高かった。

図表 3-50 通所介護の利用の有無

調査対象	調査数	利 通 用 所 無 介 し 護	利 通 用 所 あ 介 り 護	無 回 答
総数	946	398	421	127
	100%	42.1%	44.5%	13.4%
改善	300	140	123	37
	100%	46.7%	41.0%	12.3%
①新規85点以上	61	32	21	8
	100%	52.5%	34.4%	13.1%
②継続85点以上	56	25	25	6
	100%	44.6%	44.6%	10.7%
③新規80点以下	101	55	39	7
	100%	54.5%	38.6%	6.9%
④継続80点以下	82	28	38	16
	100%	34.1%	46.3%	19.5%
維持	298	140	122	36
	100%	47.0%	40.9%	12.1%
悪化	348	118	176	54
	100%	33.9%	50.6%	15.5%

2) 通所リハビリテーション

通所リハビリテーションについては、利用している割合が改善群では21.7%、維持群では15.1%、悪化群では17.8%であった。特に、改善群のうち初回の Barthel Index が80点以下であった利用者は高い割合であった。

図表 3-51 通所リハビリテーションの利用の有無

調査対象	調査数	シ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 利 用 な し	シ 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 利 用 あ り	無 回 答
総数	946	583	172	191
	100%	61.6%	18.2%	20.2%
改善	300	179	65	56
	100%	59.7%	21.7%	18.7%
①新規85点以上	61	41	11	9
	100%	67.2%	18.0%	14.8%
②継続85点以上	56	37	9	10
	100%	66.1%	16.1%	17.9%
③新規80点以下	101	59	25	17
	100%	58.4%	24.8%	16.8%
④継続80点以下	82	42	20	20
	100%	51.2%	24.4%	24.4%
維持	298	200	45	53
	100%	67.1%	15.1%	17.8%
悪化	348	204	62	82
	100%	58.6%	17.8%	23.6%

3) 訪問介護

訪問介護については、改善群のうち新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者、および維持群では、利用していない割合が高かった。

図表 3-52 訪問介護の利用の有無

調査対象	調査数	利 訪 用 な 介 護	利 訪 用 あ 介 護	無 回 答
総数	946	545	217	184
	100%	57.6%	22.9%	19.5%
改善	300	177	66	57
	100%	59.0%	22.0%	19.0%
①新規85点以上	61	39	9	13
	100%	63.9%	14.8%	21.3%
②継続85点以上	56	35	13	8
	100%	62.5%	23.2%	14.3%
③新規80点以下	101	57	28	16
	100%	56.4%	27.7%	15.8%
④継続80点以下	82	46	16	20
	100%	56.1%	19.5%	24.4%
維持	298	181	65	52
	100%	60.7%	21.8%	17.4%
悪化	348	187	86	75
	100%	53.7%	24.7%	21.6%

4) 訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーションについては、改善群のうち新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者、および維持群では、利用していない割合が高かった。

図表 3-53 訪問リハビリテーションの利用の有無

調査対象	調査数	シ 訪 ヨ 問 ン リ ハ 用 ビ な リ テ ー	シ 訪 ヨ 問 ン リ ハ 用 ビ あ リ テ ー	無 回 答
総数	946	648	85	213
	100%	68.5%	9.0%	22.5%
改善	300	204	30	66
	100%	68.0%	10.0%	22.0%
①新規85点以上	61	45	4	12
	100%	73.8%	6.6%	19.7%
②継続85点以上	56	41	3	12
	100%	73.2%	5.4%	21.4%
③新規80点以下	101	69	14	18
	100%	68.3%	13.9%	17.8%
④継続80点以下	82	49	9	24
	100%	59.8%	11.0%	29.3%
維持	298	215	22	61
	100%	72.1%	7.4%	20.5%
悪化	348	229	33	86
	100%	65.8%	9.5%	24.7%

(4) 利用者の状況について

1) 平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更

平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更については、改善群のうち新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、他と比較すると利用目標を変更した割合が高かった。

図表 3-54 平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更

調査対象	調査数	な 利 用 目 標 の 変 更	あ り 利 用 目 標 の 変 更	無 回 答
総数	946	822	94	30
	100%	86.9%	9.9%	3.2%
改善	300	263	30	7
	100%	87.7%	10.0%	2.3%
①新規85点以上	61	59	2	0
	100%	96.7%	3.3%	0.0%
②継続85点以上	56	47	5	4
	100%	83.9%	8.9%	7.1%
③新規80点以下	101	86	14	1
	100%	85.1%	13.9%	1.0%
④継続80点以下	82	71	9	2
	100%	86.6%	11.0%	2.4%
維持	298	264	23	11
	100%	88.6%	7.7%	3.7%
悪化	348	295	41	12
	100%	84.8%	11.8%	3.4%

2) 平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更の理由

平成 30 年 1 月以降の利用目標の変更の理由については、改善群のうち新規利用者、継続利用者ともに初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、「利用目標を達成した」割合が高かった。

図表 3-55 変更ありの場合の理由

調査対象	調査数	し 利 用 目 標 を 達 成	が 利 用 目 標 の 水 準 を 超 え た	そ の 他
総数	200	152	6	42
	100%	76.0%	3.0%	21.0%
改善	60	49	0	11
	100%	81.7%	0.0%	18.3%
①新規85点以上	12	11	0	1
	100%	91.7%	0.0%	8.3%
②継続85点以上	11	10	0	1
	100%	90.9%	0.0%	9.1%
③新規80点以下	23	19	0	4
	100%	82.6%	0.0%	17.4%
④継続80点以下	14	9	0	5
	100%	64.3%	0.0%	35.7%
維持	63	51	1	11
	100%	81.0%	1.6%	17.5%
悪化	77	52	5	20
	100%	67.5%	6.5%	26.0%

注) 回答者を対象者数として集計表を作成

3) 利用目標におけるキーワード毎の目標達成度

a. 立ち上がり

立ち上がりについて、目標を達成した割合は、改善群は 86.4%、維持群は 82.5%、悪化群は 72.8%であった。

図表 3-56 立ち上がり

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	358	287	67	4
	100%	80.2%	18.7%	1.1%
改善	125	108	17	0
	100%	86.4%	13.6%	0.0%
①新規85点以上	19	16	3	0
	100%	84.2%	15.8%	0.0%
②継続85点以上	21	18	3	0
	100%	85.7%	14.3%	0.0%
③新規80点以下	47	42	5	0
	100%	89.4%	10.6%	0.0%
④継続80点以下	38	32	6	0
	100%	84.2%	15.8%	0.0%
維持	97	80	14	3
	100%	82.5%	14.4%	3.1%
悪化	136	99	36	1
	100%	72.8%	26.5%	0.7%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

b. 移乗

移乗について目標を達成した割合は、改善群は 86.6%、維持群は 74.0%、悪化群は 66.7%であった。

図表 3-57 移乗

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成
総数	216	164	48	4
	100%	75.9%	22.2%	1.9%
改善	82	71	11	0
	100%	86.6%	13.4%	0.0%
①新規85点以上	10	9	1	0
	100%	90.0%	10.0%	0.0%
②継続85点以上	9	9	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	34	29	5	0
	100%	85.3%	14.7%	0.0%
④継続80点以下	29	24	5	0
	100%	82.8%	17.2%	0.0%
維持	50	37	10	3
	100%	74.0%	20.0%	6.0%
悪化	84	56	27	1
	100%	66.7%	32.1%	1.2%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

c. 屋内歩行

屋内歩行について目標を達成した割合は、改善群は 79.8%、維持群は、80.7%、悪化群は 72.1%であった。特に改善群のうち、初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者は、新規利用者、継続利用者ともに目標を達成した割合が高かった。

図表 3-58 屋内歩行

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成	
総数	291	225	50	16	
	100%	77.3%	17.2%	5.5%	
改善	104	83	18	3	
	100%	79.8%	17.3%	2.9%	
	①新規85点以上	19	17	2	0
	100%	89.5%	10.5%	0.0%	
	②継続85点以上	15	15	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%	
	③新規80点以下	39	30	9	0
	100%	76.9%	23.1%	0.0%	
④継続80点以下	31	21	7	3	
	100%	67.7%	22.6%	9.7%	
維持	83	67	8	8	
	100%	80.7%	9.6%	9.6%	
悪化	104	75	24	5	
	100%	72.1%	23.1%	4.8%	

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

d. 屋外歩行

屋外歩行については、改善群のうち、初回の Barthel Index が 85 点以上であった継続利用者において、目標を達成した割合が高かった。

図表 3-59 屋外歩行

調査対象	調査数	達成	一部達成	未達成	
総数	249	179	41	29	
	100%	71.9%	16.5%	11.6%	
改善	83	56	17	10	
	100%	67.5%	20.5%	12.0%	
	①新規85点以上	18	14	4	0
	100%	77.8%	22.2%	0.0%	
	②継続85点以上	16	16	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%	
	③新規80点以下	27	13	10	4
	100%	48.1%	37.0%	14.8%	
④継続80点以下	22	13	3	6	
	100%	59.1%	13.6%	27.3%	
維持	78	62	6	10	
	100%	79.5%	7.7%	12.8%	
悪化	88	61	18	9	
	100%	69.3%	20.5%	10.2%	

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

(5) 利用者本人の生活への満足度

1) あなた（利用者本人）は現在健康だと思いますか

自分自身が「健康である」と回答した利用者の割合は、改善群は17.7%、維持群、16.1%悪化群は10.9%であった。特に、改善群のうち、初回の Barthel Index が85点以上であった継続利用者において、「健康である」と回答した割合が高かった。

図表 3-60 あなた（利用者ご本人）は現在健康だと思いますか

調査対象	調査数	健康でない	いあまり健康でない	まあまあ健康である	健康である	無回答
総数	946	54	291	454	139	8
	100%	5.7%	30.8%	48.0%	14.7%	0.8%
改善	300	12	90	142	53	3
	100%	4.0%	30.0%	47.3%	17.7%	1.0%
①新規85点以上	61	2	14	30	14	1
	100%	3.3%	23.0%	49.2%	23.0%	1.6%
②継続85点以上	56	0	15	26	14	1
	100%	0.0%	26.8%	46.4%	25.0%	1.8%
③新規80点以下	101	5	37	45	13	1
	100%	5.0%	36.6%	44.6%	12.9%	1.0%
④継続80点以下	82	5	24	41	12	0
	100%	6.1%	29.3%	50.0%	14.6%	0.0%
維持	298	16	94	137	48	3
	100%	5.4%	31.5%	46.0%	16.1%	1.0%
悪化	348	26	107	175	38	2
	100%	7.5%	30.7%	50.3%	10.9%	0.6%

2) あなた（利用者本人）は、自分の日常生活全般について満足していますか

日常生活全般の満足度について、「満足している」「まあ満足している」と回答した利用者の合計は、改善群は86.0%、維持群は80.2%、悪化群は79.3%であった。特に、改善群のうち初回の Barthel Index が85点以上であった利用者は、新規利用者、継続利用者ともに「満足している」と回答した割合が高かった。

図表 3-61 あなた（利用者本人）は、自分の日常生活全般について満足していますか

調査対象	調査数	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
総数	946	189	584	125	26	22
	100%	20.0%	61.7%	13.2%	2.7%	2.3%
改善	300	62	196	33	4	5
	100%	20.7%	65.3%	11.0%	1.3%	1.7%
①新規85点以上	61	18	37	4	1	1
	100%	29.5%	60.7%	6.6%	1.6%	1.6%
②継続85点以上	56	17	31	7	0	1
	100%	30.4%	55.4%	12.5%	0.0%	1.8%
③新規80点以下	101	14	71	13	1	2
	100%	13.9%	70.3%	12.9%	1.0%	2.0%
④継続80点以下	82	13	57	9	2	1
	100%	15.9%	69.5%	11.0%	2.4%	1.2%
維持	298	64	175	38	14	7
	100%	21.5%	58.7%	12.8%	4.7%	2.3%
悪化	348	63	213	54	8	10
	100%	18.1%	61.2%	15.5%	2.3%	2.9%

(6) 前回調査以降の変化について

1) 福祉用具の操作の慣れ、利用頻度

a. 手すり

操作の慣れについては、改善群のうち初回の Barthel Index が 85 点以上であった利用者および維持群では、慣れたと回答する割合が高かった。利用頻度については、群による差は見られなかった。

図表 3-62 操作の慣れ 手すり

調査対象	調査数	慣れた	やや慣れた	変わらない	慣れていない
総数	522	427	26	68	1
	100%	81.8%	5.0%	13.0%	0.2%
改善	175	141	7	27	0
	100%	80.6%	4.0%	15.4%	0.0%
①新規85点以上	45	39	2	4	0
	100%	86.7%	4.4%	8.9%	0.0%
②継続85点以上	34	29	1	4	0
	100%	85.3%	2.9%	11.8%	0.0%
③新規80点以下	47	35	0	12	0
	100%	74.5%	0.0%	25.5%	0.0%
④継続80点以下	49	38	4	7	0
	100%	77.6%	8.2%	14.3%	0.0%
維持	163	141	7	15	0
	100%	86.5%	4.3%	9.2%	0.0%
悪化	184	145	12	26	1
	100%	78.8%	6.5%	14.1%	0.5%

図表 3-63 利用頻度 手すり

調査対象	調査数	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った
総数	516	80	40	393	3	0
	100%	15.5%	7.8%	76.2%	0.6%	0.0%
改善	173	24	13	135	1	0
	100%	13.9%	7.5%	78.0%	0.6%	0.0%
①新規85点以上	44	8	4	32	0	0
	100%	18.2%	9.1%	72.7%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	34	3	2	29	0	0
	100%	8.8%	5.9%	85.3%	0.0%	0.0%
③新規80点以下	47	4	3	40	0	0
	100%	8.5%	6.4%	85.1%	0.0%	0.0%
④継続80点以下	48	9	4	34	1	0
	100%	18.8%	8.3%	70.8%	2.1%	0.0%
維持	159	31	9	118	1	0
	100%	19.5%	5.7%	74.2%	0.6%	0.0%
悪化	184	25	18	140	1	0
	100%	13.6%	9.8%	76.1%	0.5%	0.0%

b. 車いす・付属品

操作の慣れについては、「慣れた」と回答した割合は、改善群は 75.6%、維持群は 64.3%、悪化群は 67.6%であった。利用頻度については、「増えた」と回答した割合は、改善群は 13.4%、維持群は 16.4%、悪化群は 20.0%であった。

図表 3-64 操作の慣れ 車いす・付属品

調査対象	調査数	慣れた	やや慣れた	変わらない	慣れていない
総数	249	173	35	41	0
	100%	69.5%	14.1%	16.5%	0.0%
改善	82	62	8	12	0
	100%	75.6%	9.8%	14.6%	0.0%
①新規85点以上	2	2	0	0	0
	100%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	5	3	1	1	0
	100%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
③新規80点以下	45	31	6	8	0
	100%	68.9%	13.3%	17.8%	0.0%
④継続80点以下	30	26	1	3	0
	100%	86.7%	3.3%	10.0%	0.0%
維持	56	36	10	10	0
	100%	64.3%	17.9%	17.9%	0.0%
悪化	111	75	17	19	0
	100%	67.6%	15.3%	17.1%	0.0%

図表 3-65 利用頻度 車いす・付属品

調査対象	調査数	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った
総数	247	42	24	169	9	3
	100%	17.0%	9.7%	68.4%	3.6%	1.2%
改善	82	11	11	52	6	2
	100%	13.4%	13.4%	63.4%	7.3%	2.4%
①新規85点以上	2	0	1	1	0	0
	100%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	6	1	1	2	2	0
	100%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	0.0%
③新規80点以下	44	8	5	26	4	1
	100%	18.2%	11.4%	59.1%	9.1%	2.3%
④継続80点以下	30	2	4	23	0	1
	100%	6.7%	13.3%	76.7%	0.0%	3.3%
維持	55	9	7	39	0	0
	100%	16.4%	12.7%	70.9%	0.0%	0.0%
悪化	110	22	6	78	3	1
	100%	20.0%	5.5%	70.9%	2.7%	0.9%

c. 歩行器

操作の慣れについては、改善群のうち継続利用者、および維持群で「慣れた」と回答する割合が高かった。利用頻度については、群による差は見られなかった。

図表 3-66 操作の慣れ 歩行器

調査対象	調査数	慣れた	たやや慣れ	い変わらな	な慣いてい
総数	329	255	34	39	1
	100%	77.5%	10.3%	11.9%	0.3%
改善	109	82	11	16	0
	100%	75.2%	10.1%	14.7%	0.0%
①新規85点以上	25	19	3	3	0
	100%	76.0%	12.0%	12.0%	0.0%
②継続85点以上	26	21	1	4	0
	100%	80.8%	3.8%	15.4%	0.0%
③新規80点以下	35	23	6	6	0
	100%	65.7%	17.1%	17.1%	0.0%
④継続80点以下	23	19	1	3	0
	100%	82.6%	4.3%	13.0%	0.0%
維持	99	84	8	7	0
	100%	84.8%	8.1%	7.1%	0.0%
悪化	121	89	15	16	1
	100%	73.6%	12.4%	13.2%	0.8%

図表 3-67 利用頻度 歩行器

調査対象	調査数	増えた	やや増えた	変化なし	やや減った	減った
総数	325	54	44	213	10	4
	100%	16.6%	13.5%	65.5%	3.1%	1.2%
改善	107	18	9	76	4	0
	100%	16.8%	8.4%	71.0%	3.7%	0.0%
①新規85点以上	24	4	3	17	0	0
	100%	16.7%	12.5%	70.8%	0.0%	0.0%
②継続85点以上	26	4	0	21	1	0
	100%	15.4%	0.0%	80.8%	3.8%	0.0%
③新規80点以下	35	6	5	21	3	0
	100%	17.1%	14.3%	60.0%	8.6%	0.0%
④継続80点以下	22	4	1	17	0	0
	100%	18.2%	4.5%	77.3%	0.0%	0.0%
維持	99	19	14	61	4	1
	100%	19.2%	14.1%	61.6%	4.0%	1.0%
悪化	119	17	21	76	2	3
	100%	14.3%	17.6%	63.9%	1.7%	2.5%

2) 介護サービスの利用状況の変化

前回調査以降の介護サービスの利用状況の変化について、「介護サービスの利用が減った」と回答した割合は、改善群が 7.7%、維持群は 3.4%、悪化群は 4.9%であった。「介護サービスの利用が増えた」と回答した割合は、改善群は 7.0%、維持群は 8.1%、悪化群は 18.7%であった。

図表 3-68 前回調査以降の介護サービスの利用状況の変化

調査対象	調査数	が介護サービスの利用が減った	特に変化なし	が介護サービスが増えた	無回答
総数	946	50	724	110	62
	100%	5.3%	76.5%	11.6%	6.6%
改善	300	23	239	21	17
	100%	7.7%	79.7%	7.0%	5.7%
①新規85点以上	61	7	49	1	4
	100%	11.5%	80.3%	1.6%	6.6%
②継続85点以上	56	3	47	3	3
	100%	5.4%	83.9%	5.4%	5.4%
③新規80点以下	101	8	78	11	4
	100%	7.9%	77.2%	10.9%	4.0%
④継続80点以下	82	5	65	6	6
	100%	6.1%	79.3%	7.3%	7.3%
維持	298	10	242	24	22
	100%	3.4%	81.2%	8.1%	7.4%
悪化	348	17	243	65	23
	100%	4.9%	69.8%	18.7%	6.6%

介護サービスの利用が減った場合の内容および理由については、以下のような回答があった。

- ・ 身体機能の向上により訪問介護サービスを中止した (①新規 85 点以上)
- ・ 介護度が下がり、通所介護が週 5 回から週 4 回に変更した(③新規 80 点以下)
- ・ 自宅でシャワー浴が可能となり、訪問介護サービスを中止した(③新規 80 点以下)
- ・ 腰椎圧迫骨折が改善され訪問系のサービスを終了した(③新規 80 点以下)

3) 介護負担の変化

介護負担の変化については、改善群のうち初回の Barthel Index が 80 点以下であった利用者については、「介護時間が軽減した」という回答の割合が維持群、悪化群よりも高かった。

「身体的負担が軽減した」という回答の割合は、改善群のうち、新規利用者において他よりも高かった。

図表 3-69 介護負担の変化

調査対象	調査数	介護時間が軽減	減身体的負担が軽	減精神的負担が軽	変化なし	無回答
総数	946	32	53	29	687	145
	100%	3.4%	5.6%	3.1%	72.6%	15.3%
改善	300	13	18	9	226	34
	100%	4.3%	6.0%	3.0%	75.3%	11.3%
①新規85点以上	61	0	5	2	45	9
	100%	0.0%	8.2%	3.3%	73.8%	14.8%
②継続85点以上	56	1	2	1	45	7
	100%	1.8%	3.6%	1.8%	80.4%	12.5%
③新規80点以下	101	8	7	3	75	8
	100%	7.9%	6.9%	3.0%	74.3%	7.9%
④継続80点以下	82	4	4	3	61	10
	100%	4.9%	4.9%	3.7%	74.4%	12.2%
維持	298	9	18	8	212	51
	100%	3.0%	6.0%	2.7%	71.1%	17.1%
悪化	348	10	17	12	249	60
	100%	2.9%	4.9%	3.4%	71.6%	17.2%

介護負担が軽減した場合の内容については、以下のような回答があった。

介護時間が軽減	<ul style="list-style-type: none"> 動作の自立度が向上したため、介護に要する時間が軽減した (②継続 85 点以上) リハを通して足腰がしっかりしてきたため、立位・歩行の援助が減った(③新規 80 点以下) ADL 向上により見守り等が減った(④継続 80 点以下) 歩行状態の改善により、入浴介助が無くなった (④継続 80 点以下)
身体的負担が軽減	<ul style="list-style-type: none"> リハビリを行い筋力、ADL が向上した (①新規 85 点以上) 歩行器を要所で使っているため、膝、腰の痛みが減った (①新規 85 点以上) 特殊寝台や歩行器の利用に慣れ、機能を使って、立位がしやすくなった(③新規 80 点以下) 歩行が数mでき、自身でトイレに行けるようになった (③新規 80 点以下) 自宅内ではおおよそ生活動作が自立に近い状態になった (③新規 80 点以下) 立位の安定と、立ち座り動作がスムーズに行えているためトイレでの立ち座りが安全に行えるようになった (④継続 80 点以下)
精神的負担が軽減	<ul style="list-style-type: none"> 体調が安定したため精神的負担感が軽減した (②継続 85 点以上)

(7) リハビリテーション専門職との連携

連携している専門職は、全体として「理学療法士」の割合が高かった。特に改善群のうち初回の Barthel Index が 80 点以下であった新規利用者は、理学療法士、作業療法士と連携している割合が、他の利用者よりも高かった。

連携している専門職の所属は、全体として「通所リハビリテーション」の割合が高かった。特に改善群のうち初回の Barthel Index が 80 点以下であった新規利用者は、「通所リハビリテーション」に所属しているリハ専門職と連携している割合が、他の利用者よりも高かった。

図表 3-70 連携している専門職（複数回答）

調査対象	調査数	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他	無回答（連携していないも含む）
総数	946	192	72	4	71	640
	100%	20.3%	7.6%	0.4%	7.5%	67.7%
改善	300	60	25	3	23	200
	100%	20.0%	8.3%	1.0%	7.7%	66.7%
①新規85点以上	61	9	2	0	2	48
	100%	14.8%	3.3%	0.0%	3.3%	78.7%
②継続85点以上	56	8	1	0	9	38
	100%	14.3%	1.8%	0.0%	16.1%	67.9%
③新規80点以下	101	27	15	1	5	61
	100%	26.7%	14.9%	1.0%	5.0%	60.4%
④継続80点以下	82	16	7	2	7	53
	100%	19.5%	8.5%	2.4%	8.5%	64.6%
維持	298	54	19	0	21	211
	100%	18.1%	6.4%	0.0%	7.0%	70.8%
悪化	348	78	28	1	27	229
	100%	22.4%	8.0%	0.3%	7.8%	65.8%

図表 3-71 連携している専門職の所属（複数回答）

調査対象	調査数	訪問看護	シヨン 訪問 リハ ビリ テ	シ通 ヨ所 リ ハ ビ リ テ	病院	その他	無回答（連携していないも含む）
総数	946	74	55	140	33	72	610
	100%	7.8%	5.8%	14.8%	3.5%	7.6%	64.5%
改善	300	23	21	51	10	19	188
	100%	7.7%	7.0%	17.0%	3.3%	6.3%	62.7%
①新規85点以上	61	0	2	8	2	3	46
	100%	0.0%	3.3%	13.1%	3.3%	4.9%	75.4%
②継続85点以上	56	3	2	8	1	4	38
	100%	5.4%	3.6%	14.3%	1.8%	7.1%	67.9%
③新規80点以下	101	9	10	21	6	4	58
	100%	8.9%	9.9%	20.8%	5.9%	4.0%	57.4%
④継続80点以下	82	11	7	14	1	8	46
	100%	13.4%	8.5%	17.1%	1.2%	9.8%	56.1%
維持	298	19	13	38	7	19	210
	100%	6.4%	4.4%	12.8%	2.3%	6.4%	70.5%
悪化	348	32	21	51	16	34	212
	100%	9.2%	6.0%	14.7%	4.6%	9.8%	60.9%

リハ専門職との連携のタイミングは、全体として「サービス担当者会議の際」と回答する割合が高く、改善群は28.7%、維持群は17.4%、悪化群は25.9%であった。また、改善群のうち初回の Barthel Index が80点以下であった新規利用者は、「用具の選定、見直しの際」と回答する割合が、他の利用者よりも高かった。

図表 3-72 連携のタイミング（複数回答）

調査対象	調査数	アセスメントの際	用具の選定・見直しの際	搬入・設置の際	利用指導・適合調整の際	モニタリングの際	サービス担当者会議の際	その他	も無回答（連携していない）
総数	946	42	72	18	33	48	228	20	655
	100%	4.4%	7.6%	1.9%	3.5%	5.1%	24.1%	2.8%	69.2%
改善	300	9	23	6	8	20	86	6	201
	100%	3.0%	7.7%	2.0%	2.7%	6.7%	28.7%	2.0%	67.0%
①新規85点以上	61	1	1	0	1	3	12	1	47
	100%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	4.9%	19.7%	1.6%	77.0%
②継続85点以上	56	2	4	0	1	3	15	0	41
	100%	3.6%	7.1%	0.0%	1.8%	5.4%	26.8%	0.0%	73.2%
③新規80点以下	101	3	12	3	3	7	36	3	60
	100%	3.0%	11.9%	3.0%	3.0%	6.9%	35.6%	3.0%	59.4%
④継続80点以下	82	3	6	3	3	7	23	2	53
	100%	3.7%	7.3%	3.7%	3.7%	8.5%	28.0%	2.4%	64.6%
維持	298	10	16	6	14	9	52	7	225
	100%	3.4%	5.4%	2.0%	4.7%	3.0%	17.4%	2.3%	75.5%
悪化	348	23	33	6	11	19	90	7	230
	100%	6.6%	9.5%	1.7%	3.2%	5.5%	25.9%	2.0%	66.1%

注) 無回答を除いたものを対象者数として集計表を作成

連携先、連携する職種、連携内容と頻度は以下のとおりであった。

連携先	職種	連携内容	頻度	群
訪問リハ	理学療法士	訪問リハビリ	週1回	①
訪問リハ	理学療法士	入浴動作確認、歩行状態に適した用具の選定	半年に1回程度	①
通所リハ	理学療法士	通所リハでの様子のヒアリング	随時	①
通所リハ	理学療法士	リハビリの内容と自宅での生活動作の確認	短期目標見直しの際(6カ月～1年に1回)	①
通所リハ	作業療法士	リハビリの際に必要な福祉用具の提案	半年～1年に1、2回	①
通所リハ	理学療法士	歩行器の使い方や、身体状況の確認	半年に一度。	①
病院	理学療法士	歩行時の状態確認	担当者会議の際	①
訪問リハ	理学療法士	筋力トレーニング、ストレッチ	週1回	②
通所リハ	理学療法士	歩行訓練	週2回	②
通所リハ	理学療法士	3カ月に1度のリハビリテーション会議の開催	3カ月毎	②
通所介護	作業療法士	サービス利用中のリハビリ内容の把握	担当者会議やサービス訪問時	②
訪問リハ	作業療法士	リハビリの状況の確認	週3回	③

連携先	職種	連携内容	頻度	群
訪問リハ	作業療法士	デイケアでの訓練	随時	③
訪問リハ	作業療法士	情報共有	サービス担当者会議	③
通所リハ	理学療法士	リハビリの状況の確認	週に2回(木・土)	③
通所リハ	理学療法士	歩行器の適合状況	6カ月に1回程度	③
通所リハ	理学療法士	アセスメント	6カ月に1回	③
通所リハ	理学療法士	導入福祉用具の評価	6カ月から1年に1回	③
通所リハ	理学療法士	歩行状態と日常生活での困難な動作が無いか	サービス担当者会議	③
通所リハ	作業療法士	歩行能力の変化とADL	サービス担当者会議	③
通所リハ	作業療法士	身体状況の確認等	サービス担当者会議 および必要に応じて	③
通所リハ	理学療法士 作業療法士	食事のしかた	週1回	③
通所リハ、 通所介護	理学療法士	デイケア、通所。	週1回。	③
訪問看護 訪問リハ	理学療法士 作業療法士	ADL現状確認	1/3カ月	③
訪問看護	言語聴覚士	歌ったり、小道具の準備。	月2回	③
訪問看護	理学療法士 看護師	体の痛みや動作状況を伝えて、立位、移乗、歩行の頻度や方法を考える。	3カ月～6カ月に1回	③
病院	理学療法士	デイ利用時の個別訓練	週3回	③
病院	理学療法士	車いすの再検討	退院時に1度	③
訪問リハ	理学療法士	下肢筋力、腹筋	週1回。	④
訪問リハ	理学療法士	訪問リハビリ	週1回。	④
訪問リハ	理学療法士	歩行器の使用頻度や使用状況の確認	随時	④
訪問リハ	理学療法士	目標の再設定、杖歩行の距離をのばす。	必要があれば同行	④
通所リハ	作業療法士	通所リハ利用時に可動域訓練等	週3回	④
通所リハ	作業療法士 言語聴覚士	発音、筋力向上のための歩行訓練	週3回	④
通所リハ	理学療法士	リハビリの内容について。	都度	④
通所リハ	作業療法士	リハビリ内容。身体機能	月1回	④
通所リハ	理学療法士 作業療法士	用具の見直し等	3カ月～6カ月に1回	④
通所リハ	理学療法士	サービス担当者会議	6カ月に1回	④
通所リハ	理学療法士	リハビリ進捗状況の確認	定期見直し	④
訪問看護 通所リハ	作業療法士 言語聴覚士	直近のADL状況の確認、留意点	6カ月に1回	④
訪問看護 通所リハ	看護師	全身状態や体調について。動きについて。	6カ月に1回	④
訪問看護 通所リハ	理学療法士	デイケアでの状況	担当者会議時	④
訪問看護	理学療法士	運動機能について	週2回	④
訪問看護	作業療法士	サービス担当者会議において	6カ月から1年に1回	④
通所介護	理学療法士	運動訓練(機能維持)	週2～3回	④

(8) 福祉用具貸与サービスの利用によって感じられた効果について

福祉用具の利用の効果についての自由回答より、改善群の利用者では、特に外出等による生活範囲の拡大、転倒の防止など安心・安全な移動、起居や立ち上がりにおける安全・安楽・円滑な動作等の効果が把握された。また、維持群、悪化群についても、同様に生活の維持や生活範囲の拡大、移動や動作の安全、安心、さらには介護負担の軽減等の効果があるとの意見が得られた。

改善群	
① 新規 85 点以上	<p><生活範囲の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して外出できるようになった。 <p><安心・安全な移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 転倒が予防できている。安心感が持てる(介助者側も) ・ 歩行器が移動に役立っており、手すり工事をしたおかげで転倒の心配がない。 <p><安全、安楽な動作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッド横の手すりも起居、離床時の手がかりとして、活用して安全、安楽に、動作が行えている。
② 継続 85 点以上	<p><安心・安全な移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全盲であるが、ベッドの介助バー、ボードが目安となり、家の動線が動きやすくなった。 <p><円滑な動作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ちあがる際に便利である。(ベッドを利用)
③ 新規 80 点以下	<p><生活範囲の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少しずつ歩行状態が改善しており、外出へ向けた意欲も出てきた。車いす、歩行器を導入することで徐々に歩行への段取りができています。 <p><安心・安全な移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行器をレンタルするようになって、歩行が安定し、車いす使用の頻度が減ってきています。 <p><安全、安楽な動作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッドからの自立した起居動作が安全、安楽にできています。
④ 継続 80 点以下	<p><安心・安全な移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しみであった野球観戦にも行けるまで、回復した。福祉用具を通して、歩行も毎日継続している。 ・ 日中独居になることがあるが、転倒なく自宅で過ごすことができています。 <p><安全、安楽な動作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最近両膝関節痛の訴えがあったが、手すりにつかまり、自分で立ち上がる事ができています。

維持群	
<p><生活範囲の維持・拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 坂の長い住宅周辺環境でも、電動車いすのおかげで訪問介護サービスを利用しなくても自立して生活が出来る。 ・ 歩行が困難であるが電動車いすを使用し外出する事で外の景色を見たり、買い物に行けるようになり気持ちも前向きになった。車いすを使用する前は3年程外出できなかったが、今では周りの友人も外出できる事を知って声をかけあい外出でき楽しみが増えた。 	

- ・ 玄関手すりがあるだけで外に出ることが、おっくうでなくなり行動範囲が広がっていきける気持ちになる
- ・ 歩行器を利用するようになって、歩くスピードが上がり、長い距離歩けるようになった。
- ・ 歩行器利用で、近所に買物に一人で安全に行く事ができる。とても役にたっている

<安心・安全な移動>

- ・ 本人の努力もあるが手すり、段差解消のスロープを設置以降転倒なくすごせている。
- ・ 安心してトイレに行けるようになった。

<安楽な動作>

- ・ 安全な起居動作につながっている。

<介護負担の軽減>

- ・ 家族の負担が減った。段差にスロープをおくことで身体的に楽になった。エアマットにより床ずれが改善された。本人の ADL が低下してくると福祉用具があることで負担軽減をより感じている。
- ・ 介護者(夫)が機器を十分に使いこなしており、心配していた在宅生活継続もここ1年入院もせず安定した生活を送れている。

悪化群

<生活の維持・生活範囲の拡大>

- ・ 特殊寝台及び付属品、車イス、移動用リフトがあるので在宅生活できている。どれか一つでもなくなると在宅生活できない。
- ・ 電動車いすで外出機会が増えてうれしい。
- ・ 歩行器を使用して、安心して外へ出る事ができている。
- ・ 特殊寝台、車いす等を使用する事で動作の自立度が高まり外出意欲の向上につながった。
- ・ 明るくいられる。カラオケにも行けている。自分で自由に行ける。
- ・ 必要な時に短距離の移動、気分転換に役立った。
- ・ 歩行能力向上。ゴミすてが可能になった。近所を散歩できる様になった。
- ・ デイサービスへ行きやすくなり、助かっている。

<安心・安全な移動>

- ・ 手すりを持つことで転ぶことなく生活できている。
- ・ 現在利用中の福祉用具に対して、屋内は歩行器で以前と変わらず利用していてふらつき防止できている。
- ・ 福祉用具が利用出来る事で、自宅での生活を送る事が出来ている。車いすが足なので、非常に感謝している。
- ・ 便利になって、ケガ防止につながっている。
- ・ 手すりを利用することで寝室～トイレまでの移動等屋内の移動を自身で行うことができている。

<安全、安楽な動作>

- ・ 寝返り、起き上がりが楽になった。
- ・ 自分で動くための用具として役立っている
- ・ 足は弱ってきているが、屋外用段差解消手摺により洗濯物を干す生活動作を継続して行えている。

<介護負担の軽減>

- ・ 特殊寝台、手すりにより介助負担が軽減している。以前よりも用具の必要性を改めて感じている。
- ・ 福祉用具を利用することで本人や介護者の負担、苦痛が軽減できた。特に介護用ベッドの背上げによって、介護者の負担が軽減でき楽になった。
- ・ (トイレなど自宅内での移動が自身でできることにより) 家族の介護負担軽減並びに本人の前向きな気持ちをひき出している。

3.4 追跡調査結果のまとめ

<分析対象について>

- ・ 追跡調査では、12 カ月または 18 カ月間、福祉用具の利用を継続している利用者 1236 人を対象として分析した。
- ・ なお、平成 29 年度調査以降、利用中止した利用者（471 人）のうち、自立、あるいは ADL が改善したことにより利用終了した利用者は 68 人であった。

<ADL の変化について>

- ・ 平成 29 年度調査では、全体として利用開始後 ADL が向上し、その後維持または緩やかな低下という変化が見られたが、12 カ月後、18 カ月後の状態を把握することにより、その後の利用においても同様の変化が継続していることが確認された。特に、利用開始時点で Barthel Index が 80 点以下であった利用者の Barthel Index 平均値は、利用開始時点で 57.3 点、4 カ月後は 59.6 点、12 カ月後は 60.3 点と向上していた（P60・図表 3-12）。
- ・ 疾患別では骨関節疾患、導入のきっかけ別では、医療機関等からの退院・退所の場合に、Barthel Index の維持・改善の割合が高かった。「骨関節疾患のみあり」の新規利用者では、貸与開始 1 カ月後から 12 カ月後も維持・改善した利用者の約 80%であり、改善した利用者の割合は徐々に高まり 12 カ月後は 32.7%であった（P71・図表 3-21）。「医療施設からの退所・退院」がきっかけで福祉用具を貸与した新規利用者についても、Barthel Index が改善した利用者の割合が高まり、12 カ月後には 37.3%であった（P74・図表 3-23）。これらの結果から、骨関節疾患等により入院し、退院時に福祉用具を利用開始し、在宅生活の中で使用することで機能が回復し ADL を向上させることができることを示していると考えられる。
- ・ 歩行補助関連用具を継続して利用し、車いす関連用具・特殊寝台関連用具を共に利用しなかった利用者は、歩行に関する ADL の改善割合が高かった。特に、新規利用者のうち初回の Barthel Index が「90 点以上 95 点以下」であった場合、12 カ月後に Barthel Index が改善した利用者の割合は 61.7%であった（P82・図表 3-27）。歩行補助具を用いて日常的に歩行を継続することで機能が向上していると考えられる。
- ・ リハビリテーションについては、12 カ月後、18 カ月後まで利用継続している割合が低かったが、4 カ月後までの変化を見ると、リハビリテーションを行っている場合、改善の割合が高かった（P88・図表 3-33）。

<QOL について>

- ・ QOL(意欲の指標や人とのつながり)については、ADL が維持、改善した場合、QOL の維持・改善割合が高かった（P91・図表 3-36、P94・図表 3-38）。
- ・ 一方、ADL が低下している場合でも、一定数の利用者は QOL が維持、改善されていた。特に人とのつながりについては、ADL が悪化しても維持されている割合が高かった（P94・図表 3-38）。
- ・ Barthel Index が維持・改善した利用者は、「意欲の指標」の平均値は、時間が経過しても 10.0 点満点中約 9.0 点と高い点数を保っており（P90・図表 3-35）、「意欲の指標」が維持・改善した利用者の割合は、新規利用者、継続利用者共に 80%～90%程度であった（P91・図表 3-36）。

- ・ Barthel Index が悪化した利用者は、新規利用者、継続利用者共に、「意欲の指標」が時間が経過するにつれ徐々に低下はするが、約 8.0 点までで大幅な低下ではなく、福祉用具を利用することで、意欲の大幅な低下防止に一部役立っていると推測される (P91・図表 3-36)。

<介護負担について>

- ・ 介護者の負担の平均値は、ADL の改善、悪化によらず大きな変化がみられなかった (P95・図表 3-39)。ADL が悪化しても、福祉用具を利用することにより、大幅に介護者の負担が悪化することがなく、また一部は改善する効果もあると推測される。

<ADL が改善した利用者の特徴について>

- ・ ADL が改善した利用者について、その他の利用者と比較すると、初回の ADL が低い群 (初回の Barthel Index が 80 点以下) では家族と同居している割合が高かった (P98・図表 3-41)。福祉用具利用のきっかけについては、初回の ADL が低い群では医療機関からの退院の割合が高く、初回の ADL が高い群 (初回の Barthel Index が 85 点以上) では介護保険の新規申請の割合が高かった (P99・図表 3-42)。住宅改修の有無については特徴は見られなかった。住宅改修の内容については、「段差の解消」を行っている割合が高かった (P100・図表 3-44)。疾患については、初回の ADL が高い群では骨関節疾患を有する利用者、初回の ADL が低い群では脳血管疾患を有する利用者の割合が高かった (P101・図表 3-45)。
- ・ 通所介護や訪問介護サービスの利用状況については、改善群、維持群では利用していない利用者の割合が高かった。通所リハビリテーションについては、改善群のうち初回の ADL が低い群は、維持群、悪化群よりも利用している割合が高かった (P104・図表 3-51)。
- ・ ADL が改善した利用者のうち特に初回の ADL が高い群では、目標を達成し、変更した割合が高かった (P106・図表 3-55)。動作別にみると、立ち上がり、移乗では改善群は全体的に達成した割合が高く、屋内歩行や屋外歩行については、初回の ADL が高い群で達成した割合が高かった (P107～P108・図表 3-56～図表 3-59)。
- ・ 前回調査以降の変化については、福祉用具の操作に対して改善群、維持群で「慣れた」「やや慣れた」と回答する割合が高かった (P110・図表 3-62) (P111・図表 3-64) (P112・図表 3-66)。また、改善群では、他のサービスの利用が減ったという回答が維持群、悪化群よりも高く、他の介護サービスの利用が増えた割合が小さかった (P113・図表 3-68)。介護負担については、改善群のうち初回の ADL が低かった群で、「介護時間が軽減した」という回答の割合が維持群、悪化群よりも高かった (P114・図表 3-69)。
- ・ リハビリテーション専門職との連携については、新規利用者で初回の ADL が低い群では、理学療法士や作業療法士と連携している割合がやや高かった (P115・図表 3-70)。リハ専門職との連携のタイミングは、全体として「サービス担当者会議の際」と回答する割合が高く、改善群のうち初回の ADL が低かった新規利用者は、「用具の選定、見直しの際」と回答する割合が、他の利用者よりも高かった (P116・図表 3-72)。